

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
13:15	A101 ○田端 純 <sup>1</sup> ・澤村 信生 <sup>2</sup> ・奈良井 祐隆 <sup>2</sup> (農環研 <sup>1</sup> ・島根農技セ <sup>2</sup> ) コナカイガラムシ類の性フェロモン生産の日周期	B101 ○村田 未果 <sup>1,2</sup> ・中井 勇介 <sup>2</sup> ・釘宮 聡 <sup>3</sup> ・望月 淳 <sup>3</sup> ・光原 一朗 <sup>2</sup> ・瀬尾 茂美 <sup>2</sup> ( (国研)農研機構 野茶研 <sup>1</sup> ・(国研)農生研 <sup>2</sup> ・(国研)農環研 <sup>3</sup> ) 新規害虫抵抗性誘導物質TRI1のトマトにおける作用機構の解析	C101 ○内山 徹・小澤 朗人(静岡茶研センター) チャノコカクモンハマキ成虫に対するジアミド系殺虫剤の産卵抑制効果	D101 ○澤島 拓夫 <sup>1</sup> ・小坂 彰 <sup>1</sup> ・竹内 健 <sup>1</sup> ・菅野 格朗 <sup>2</sup> ・早坂 大亮 <sup>1</sup> (近大農 <sup>1</sup> ・環境機器 <sup>2</sup> ) 道路のガードレールおよびガードパイプにおけるセアカゴケグモの営巣環境選択性	E101 田中 健一(山形大学農学部) マメコバチの巣筒内におけるカツオブシムシ類の独房食害位置について	F101 伊藤 隆夫(広島大院) 大型ヒョウモン類のいわゆる「夏眠」について	G101 下川 咲 <sup>1</sup> ・河内 健太郎 <sup>1</sup> ・Hojun Rim <sup>2</sup> ・塩尻 かつり <sup>3</sup> ・稲毛 直人 <sup>1</sup> ・小島 秀一 <sup>1</sup> ・安東 義乃 <sup>4</sup> ・小澤 理香 <sup>2</sup> ・高林 純示 <sup>2</sup> ・岡田 憲典 <sup>5</sup> ・○有村 源一郎 <sup>1</sup> (東京理大・基礎工 <sup>1</sup> ・京大・生態研 <sup>2</sup> ・龍谷大・農 <sup>3</sup> ・北大・FSC <sup>4</sup> ・東大・生物工学セ <sup>5</sup> ) セイタカアワダチソウの香気成分多様性の分子メカニズム
13:30	A102 西村 至央 <sup>1</sup> ・田中 真史 <sup>1</sup> ・上野 民夫 <sup>2</sup> ・松尾 憲忠 <sup>2</sup> ・香谷 康幸 <sup>2</sup> ・○佐久間 正幸 <sup>1</sup> (京大院農昆虫生理 <sup>1</sup> ・大日本除虫菊(株) <sup>2</sup> ) ワモンゴキブリの集合フェロモンの単離・構造決定	B102 ○糸川 健太郎 <sup>1,2</sup> ・駒形 修一 <sup>1</sup> ・葛西 真治 <sup>1</sup> ・小川 浩平 <sup>1</sup> ・富田 隆史 <sup>1</sup> (国立感染症研究所・昆虫医科学部 <sup>1</sup> ・国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) <sup>2</sup> ) チカイエカにおけるピロプロキシフェン抵抗性とその機構	C102 ○吉岡 哲也 <sup>1</sup> ・中国 健太郎 <sup>1</sup> ・井上 梨絵 <sup>1</sup> ・佐藤 安志 <sup>2</sup> (福岡農林試八女 <sup>1</sup> ・農研機構・野茶研(金谷) <sup>2</sup> ) チャノコカクモンハマキ成虫に対するシアントラニリプロール剤の殺虫活性	D102 ○武井 円一 <sup>1</sup> ・中平 知芳 <sup>2</sup> ・岡田 知之 <sup>2</sup> ・鍵和田 聡 <sup>3</sup> ・上遠野 富士夫 <sup>3</sup> (法政大院・理工 <sup>1</sup> ・高知農技セ <sup>2</sup> ・法政大・生命 <sup>3</sup> ) シソサビダニ、 <i>Shevtchenkella</i> sp. の生態特性の解明	E102 ○植松 綾子・陣野 泰明・寺本 健(長崎農技セ) 諫早湾干拓地でのヒメイワダレソウによるアブラバチ類温存効果	F102 ○田中 幸一 <sup>1</sup> ・浜崎 健児 <sup>2</sup> (農環研 <sup>1</sup> ・大阪環農水研 <sup>2</sup> ) 造成ビオトープにおける水生昆虫の種数の変化	G102 ○高橋 美帆・堀元 栄枝・秋野 順治(京工織大) サツマイモの花外蜜腺はアリ依存型間接的防衛戦術として機能するか
13:45	A103 ○田中 真史・西村 至央・佐久間 正幸(京大院農昆虫生理) ワモンゴキブリの集合フェロモンの分泌部位	B103 ○土井 誠・中野 亮平・石川 隆輔(静岡農林技研) 殺ダニ剤への展着剤・気門封鎖型殺虫剤加用によるナミハダニ黄緑型に対する殺虫効果向上	C103 ○伊藤 玲央 <sup>1</sup> ・上室 剛 <sup>2</sup> (大分農林水産研農薬 <sup>1</sup> ・鹿児島農総セ茶業部 <sup>2</sup> ) チャハマキ成虫に対するシアントラニリプロール剤の殺虫活性	D103 ○荻原 麻理 <sup>1</sup> ・竹島 実加 <sup>1</sup> ・Taylor DeMar <sup>2</sup> ・片岡 宏誌 <sup>1</sup> (東大院・新領域 <sup>1</sup> ・筑波大院・生命環境 <sup>2</sup> ) マダニのステロイドホルモン産生組織におけるコレステロール取り込み機構の解明	E103 ○手柴 真弓 <sup>1</sup> ・田端 純 <sup>2</sup> (福岡県農林試 <sup>1</sup> ・農業環境技術研究所 <sup>2</sup> ) 交信攪乱剤がフジコナカイガラムシの寄生蜂 <i>Anagyrus fujikona</i> に及ぼす影響	F103 ○平松 新一 <sup>1,2</sup> ・西川 潮 <sup>2,3</sup> (石川県白山自然保護セ <sup>1</sup> ・金沢大・院・自然研 <sup>2</sup> ・金沢大・環日セ <sup>3</sup> ) モニタリングサイト1000による白山亜高山帯・高山帯でのゴミムシ類の7年間の調査結果	G103 ○松岡 寛之・西 優輔(岡山農研) 土着天敵タバコカスミカメに対する数種殺虫剤の影響期間
14:00	A104 前田 太郎 <sup>1</sup> ・○辻井(藤原) 直 <sup>1</sup> ・安居 拓恵 <sup>1</sup> ・松山 茂 <sup>2</sup> (農生研 <sup>1</sup> ・筑波大 <sup>2</sup> ) コヒメハナカメムシ成熟メスの足跡に含まれる性フェロモン様物質の同定	B104 ○田中 綾介・坂田 和之・藤岡 伸祐・足立 康(日本農薬株式会社) 新規殺ダニ剤ピフルミド(NNI-0711)に関する研究(第7報)ーハダニ類の感受性動向と抵抗性対策検討ー	C104 ○上室 剛・東垂水 昭子(鹿児島農総セ茶業部) チャノホソガ成虫に対する各種薬剤の効果	D104 ○久保 良平 <sup>1</sup> ・宇賀神 篤 <sup>2,3</sup> ・小野 正人 <sup>2</sup> (玉川大・ミツバチ科学 <sup>1</sup> ・玉川大・院・農・昆虫機能 <sup>2</sup> ・学振PD <sup>3</sup> ) 日本在来種マルハナバチに寄生したシヘンチュウの初記録と系統解析の試み	E104 望月 雅俊(農研機構果樹研究所) イセリヤカイガラが発生する銀葉アカシアでのベダリアテントウの保護・強化	F104 ○藤家 梓 <sup>1</sup> ・Wand Khalis Ali <sup>2</sup> ・Ashqi Ahmed Hussein <sup>3</sup> ・佐久間 弘行 <sup>4</sup> (元JICA専門家 <sup>1</sup> ・サラハディン大学 <sup>2</sup> ・JICA園芸プロジェクト <sup>3</sup> ・JICA園芸プロジェクト <sup>4</sup> ) イラクにおける核果類果樹害虫としてのタマムシ類の生態	G104 ○橋本 奈都揮・矢野 栄二・松尾 愛理佐・佐野 朱加(近畿大・農) タバコカスミカメの捕食嗜好性に及ぼす2種の害虫の個体数比率および条件付けの影響

H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	U会場
H101 ○渡辺 和成・伊藤 克彦・天竺桂 弘子・横山 岳(農工大農) カイコのop変異体の成虫に見られる多様な表現型	I101 伴 光哲(環境指標生物) インドシナにおけるクロマダラナガカメムシ科(カメムシ目: ナガカメムシ上科)の分類学的研究	J101 平野 陽太 <sup>1</sup> ・藤井 裕紀 <sup>2</sup> ・塩谷 天 <sup>1</sup> ・伊賀 正年 <sup>3</sup> ・五十嵐 史彦 <sup>3</sup> ・引場 樹里 <sup>3</sup> ・片岡 宏誌 <sup>3</sup> ・岡嶋 孝治 <sup>2</sup> ・○丹羽 隆介 <sup>1,4</sup> (筑波大・生命環境 <sup>1</sup> ・北大・工 <sup>2</sup> ・東大・新領域 <sup>3</sup> ・JST・さきがけ <sup>4</sup> ) 母性由来ステロールはショウジョウバエ卵膜のバリア機能に必須である	K101 ○山崎 和久 <sup>1</sup> ・Kai Schutte <sup>2</sup> ・中 秀司 <sup>3</sup> (東大院・農 <sup>1</sup> ・UHH, Zoologisches Museum <sup>2</sup> ・鳥取大・農 <sup>3</sup> ) 日本産ハラビロカマキリ属2種の生態および個体群構造の比較	L101 ○竹中 將起 <sup>1</sup> ・東城 幸治 <sup>2,1</sup> (信州大学院・理工 <sup>1</sup> ・信州大学・理 <sup>2</sup> ) オオカワゲラ科カワゲラ類の系統地理～日本列島へ渡りそびれた者たちの物語～	13:15
H102 竹田津 桜 <sup>1</sup> ・門野 敬子 <sup>2</sup> ・小林 徹也 <sup>2</sup> ・富田 秀一郎 <sup>2</sup> ・藤井 告 <sup>3</sup> ・伴野 豊 <sup>3</sup> ・○小林 淳 <sup>1</sup> (山口大・農 <sup>1</sup> ・生物研 <sup>2</sup> ・九州大・農 <sup>3</sup> ) クワコ染色体置換カイコ系統を用いたクワコの蛹期間の遺伝学的解析	I102 中谷 至伸(農環研) 日本産 <i>Pilophorus</i> 属(半翅目:カスミカメムシ科)に関する新発見	J102 ○横張 文男・渡邊 英博(福岡大・理・地球圏) 無翅目昆虫マダラシミ( <i>Themobia domestica</i> )の湿度感覚について	K102 ○五味 正志 <sup>1</sup> ・岩橋 諒一 <sup>1</sup> ・米井 春香 <sup>2</sup> (県立広島大生命環境 <sup>1</sup> ・県立広島大院生命 <sup>2</sup> ) フタホシオオロギのオス幼虫の発育特性に対する温度の影響	L102 三上 賢司 <sup>1</sup> ・野崎 隆夫 <sup>2</sup> ・○東城 幸治 <sup>3</sup> (信州大院 理学系 <sup>1</sup> ・神奈川 二宮町 <sup>2</sup> ・信州大 理学系 <sup>3</sup> ) オンダケトビケラ類の系統進化～種間での「非対称」的浸透交雑を検出～	13:30
H103 ○岡田 泰和 <sup>1</sup> ・小澤 高嶺 <sup>1</sup> ・嶋田 正和 <sup>1</sup> ・新美 輝幸 <sup>2</sup> ・岡田 賢祐 <sup>3</sup> ・太田 邦史 <sup>1</sup> (東大・総合文化 <sup>1</sup> ・基生研・進化発生 <sup>2</sup> ・岡大・環境生命 <sup>3</sup> ) 装飾形質の表現型変異のウラにあるエピゲノム機構	I103 ○山田 藍生・江口 克之(首都大・理工・生命) ベトナム産ナミバラアリ属 <i>Acanthomyrmex</i> の分類学的研究	J103 加藤 大貴 <sup>1</sup> ・早川 優輝 <sup>1</sup> ・北本 篤志 <sup>1</sup> ・志賀 正太郎 <sup>1</sup> ・神谷 克巳 <sup>2</sup> ・水口 智江可 <sup>1</sup> ・○三浦 健 <sup>1</sup> (名大院・生命農 <sup>1</sup> ・岐阜県農技センター <sup>2</sup> ) コクヌストモドキ糸状菌感染モデルにおけるToll経路とIMD経路の働き	K103 ○日下部 良康 <sup>1</sup> ・楠井 善久 <sup>2</sup> (神奈川県横浜市 <sup>1</sup> ・沖縄県那覇市 <sup>2</sup> ) 外来種イチジクカマキリの室内飼育(予報)	L103 ○小池 花苗・東城 幸治(信州大・理) カマキリモドキ類の分子系統地理～隠蔽系統の検出～	13:45
H104 ○齊藤 惇基・木村 亮太・海江田 祐也・西田 律夫・小野 肇(京大院・農) 遺伝子ノックダウンショウジョウバエを用いた ecdysone 生合成経路の解析	I104 三田 敏治(九大院・農・昆虫) 日本産アリモドキバチ科の最新の知見	J104 ○尾崎 克久 <sup>1</sup> ・小寺 正明 <sup>3</sup> ・武藤 愛 <sup>2</sup> ・吉川 寛 <sup>1</sup> (JT生命誌研究館 <sup>1</sup> ・奈良先端科学技術大学 <sup>2</sup> ・東京工業大学 <sup>3</sup> ) アゲハチョウの食草選択に関わる化学感覚受容体遺伝子の種間比較	K104 ○政所 名積 <sup>1</sup> ・日下部 良康 <sup>2</sup> (神奈川県秦野市 <sup>1</sup> ・神奈川県横浜市 <sup>2</sup> ) ウマノオバチ雄の発見! その行動について	L104 ○山本 哲也 <sup>1</sup> ・服部 充 <sup>2</sup> ・松本 嘉幸 <sup>3</sup> ・上田 昇平 <sup>4</sup> ・小松 貴 <sup>5</sup> ・市野 隆雄 <sup>6</sup> (信大・院・理工 <sup>1</sup> ・玉川大・農 <sup>2</sup> ・芝浦柏中高 <sup>3</sup> ・大阪府大・生命 <sup>4</sup> ・九大・熱農研 <sup>5</sup> ・信大・理・山岳 <sup>6</sup> ) クチナガオオアブラムシ属の分子系統解析と、寄主植物および共生アリ特異性	14:00

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
10:00	A201 柿崎 昌志 (道総研 中央農試) アカスジカスカメとフタスジカスカメの抽出成分の比較	B201 ○須藤 正彬・山中 武彦 (農環研) 殺虫剤抵抗性管理における討ち漏らしの功罪	C201 ○佐藤 安志・屋良 佳緒利 (農研機構野茶研・金谷) 青色LED光の夜間照射によるチャノコカクモンハマキの密度抑制効果	D201 ○齋藤 信弥 <sup>1</sup> ・黒坂 美穂 <sup>2</sup> ・上野 清 <sup>3</sup> (山形防除所庄内 <sup>1</sup> ・山形農業大学校 <sup>2</sup> ・山形農総研水田農試 <sup>3</sup> ) 山形県庄内地域におけるダイズシストセンチュウの発生状況について	E201 ○城田 安幸・城田 創・佐藤 悠平 (医果同 源りんご機能研) 無農薬りんご園の害虫管理 (12) 5年間合成農薬・合成肥料を使用せず、有機認証を取得したりんご園に於ける モモシンクイガ、リンゴコカクモンハマキ、ミダレカクモンハマキの発生	F201 伊藤 文紀 (香川大・農) 観音寺市有明浜のハナバチ相	G201 ○増井 伸一・片山 晴喜 (静岡果樹研究センター) カンキツ園周辺の樹木が持つ広食性カブリダニの密度維持機能
10:15	A202 ○Yu Rong <sup>1</sup> ・藤井 毅 <sup>1,2</sup> ・石川 幸男 <sup>1</sup> (東大院・農 <sup>1</sup> ・農工大・農 <sup>2</sup> ) クワゴマダラヒトリのフェロモン腺で発現するP450遺伝子のクローニング解析	B202 ○松村 正哉 <sup>1</sup> ・真田 幸代 <sup>1</sup> ・藤井 智久 <sup>1</sup> ・大江 高穂 <sup>2</sup> ・井手 真奈美 <sup>3</sup> (九州沖縄農研 <sup>1</sup> ・宮城古川農試 <sup>2</sup> ・長崎防除所 <sup>3</sup> ) トビイロウンカのネオニコチノイド剤とフェニルピラゾール剤に対する感受性の近年の動向	C202 ○斎藤 佳乃 <sup>1</sup> ・渋谷 和樹 <sup>1,2</sup> ・堀 雅敏 <sup>1</sup> (東北大大学院農 <sup>1</sup> ・学振DC <sup>2</sup> ) チカイエカに対する青色光の殺虫効果	D202 ○櫻井 まさみ <sup>1</sup> ・植原 健人 <sup>2</sup> ・吉澤 仁志 <sup>1</sup> ・酒井 宏 <sup>1</sup> (群馬農技ゼ <sup>1</sup> ・中央農研 <sup>2</sup> ) ナス台木用品種における群馬県のネコブセンチュウ個体群の寄生程度	E202 ○村上 芳照・内田 一秀・綿打 享子・望月 孝一 (山梨果試) 携帯端末を用いたブドウの病害虫診断支援システム	F202 ○森本 健太郎 <sup>1</sup> ・大對 桂一 <sup>1</sup> ・Radha Devkota Adhikari <sup>2</sup> ・宮永 龍一 <sup>1,2</sup> (島根大・生物資源 <sup>1</sup> ・鳥取連大・生物環境 <sup>2</sup> ) 隠岐・知夫里に自生する絶滅危惧植物トウテイランの送粉昆虫	G202 ○守屋 伸生 <sup>1</sup> ・喜久村 智子 <sup>1</sup> ・貴島 圭介 <sup>1</sup> ・桃下 光敏 <sup>2</sup> (沖縄農研セ <sup>1</sup> ・アリストライフサイエンス(株) <sup>2</sup> ) マンゴーを加害するマンゴーツメハダニ及びシュレイツメハダニに対する各種カブリダニ製剤の捕食能力
10:30	A203 ○藤井 毅 <sup>1,2</sup> ・光野 秀文 <sup>3</sup> ・松山 茂 <sup>4</sup> ・垂澤 拓也 <sup>1</sup> ・Rong Yu <sup>1</sup> ・神崎 亮平 <sup>3</sup> ・石川 幸男 <sup>1</sup> (東大院・農 <sup>1</sup> ・農工大・農 <sup>2</sup> ・東大・先端研 <sup>3</sup> ・筑波大・生命環境 <sup>4</sup> ) ガ類性フェロモン腺中にみられるフェロモン類似化合物について	B203 ○真田 幸代・藤井 智久・松村 正哉 (九州沖縄農研) トビイロウンカのイミダクロプリド選抜系統の遺伝様式	C203 ○弘中 満太郎 <sup>1</sup> ・中村 信太郎 <sup>1</sup> ・針山 孝彦 <sup>1</sup> ・美山 和宏 <sup>2</sup> ・井上 弘 <sup>2</sup> (浜松医大・生物 <sup>1</sup> ・アース環境サービス株式会社 <sup>2</sup> ) 昆虫走光性のエッジ効果を利用した工場用光捕虫器の開発	D203 ○大澤 貴紀 <sup>1</sup> ・岩堀 英晶 <sup>2</sup> ・田中 篤 <sup>1</sup> (鳥取県園試 <sup>1</sup> ・龍谷大・農 <sup>2</sup> ) 土壌の種類と灌水がサツマイモネコブセンチュウの縦方向移動に及ぼす影響	E203 ○軸丸 祥大・森田 剛成・栗久 宏昭 (広島総研農技C果樹) ブドウ害虫クビアカスカンパの野生餌植物の特定：ノブドウを対象とした調査	F203 ○塚田 森生 <sup>1</sup> ・近藤 陽香 <sup>2</sup> ・秋野 順治 <sup>2</sup> (三重大 <sup>1</sup> ・工織大 <sup>2</sup> ) バンレイシの花香放出に対応した訪花甲虫の行動	G203 ○大野 和朗・松原 成隆 (宮崎大・農) タイリクヒメハナカメムシに対するオクラ真珠体の質的・量的変化～天敵温存植物の効果は安定しているのか？
10:45	A204 ○垂澤 拓也 <sup>1</sup> ・藤井 毅 <sup>1,2</sup> ・関 洋一 <sup>3</sup> ・並木 重宏 <sup>4</sup> ・加沢 和毅 <sup>4</sup> ・神崎 亮平 <sup>4</sup> ・石川 幸男 <sup>1</sup> (東大院農・応用昆虫 <sup>1</sup> ・農工大農 <sup>2</sup> ・東京薬科大学 <sup>3</sup> ・東大先端研 <sup>4</sup> ) エビガラスズメの性フェロモン及び類似化合物に対する情報処理機構の解析	B204 ○藤井 智久 <sup>1</sup> ・大江 高穂 <sup>2</sup> ・井手 真奈美 <sup>3</sup> ・真田 幸代 <sup>1</sup> ・松村 正哉 <sup>1</sup> (九州沖縄農研 <sup>1</sup> ・宮城古川農試 <sup>2</sup> ・長崎防除所 <sup>3</sup> ) トビイロウンカのイミダクロプリド選抜系統の他薬剤に対する感受性の変化	C204 ○遠藤 信幸 <sup>1</sup> ・弘中 満太郎 <sup>2</sup> (九州沖縄農研 <sup>1</sup> ・浜松医大 <sup>2</sup> ) 水銀灯のカメムシ類に対する強い誘引性とその要因	D204 ○高木 素紀 <sup>1</sup> ・関本 茂行 <sup>2</sup> ・水久保 隆之 <sup>2</sup> (茨城農総セ園研 <sup>1</sup> ・中央農研 <sup>2</sup> ) 我が国のレンコンを加害するHirschmanniella属線虫のDNA解析による種同定と分布	E204 田中 美咲 <sup>1</sup> ・内田 一秀 <sup>2</sup> ・高部 真典 <sup>3</sup> ・伊藤 慎一 <sup>4</sup> ・○中 秀司 <sup>1</sup> (鳥取大・農 <sup>1</sup> ・山梨果試 <sup>2</sup> ・山形農総研セ <sup>3</sup> ・山形県病害虫防除所 <sup>4</sup> ) 人工飼料を用いたクビアカスカシバの飼育に関する予備的研究	F204 ○西 菜穂子・宮路 克彦 (鹿児島農総セ果樹部) マンゴー加温栽培におけるチャノキイロアザミウマC系統の越冬場所の探索	G204 ○黒田 貴仁・山田 佳廣 (三重大・生物資源) 2頭羽化が稀な寄生主齢に対する単寄生蜂セグロカマバチの過寄生戦略

H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	U会場	
H201 山村 光司 (農環研) 発生率ではなく発生数を制御するためのサンプリング法	I201 ○伊藤 誠人・前藤 薫 (神戸大院・農) 日本産 <i>Spilopteron</i> 属(ヒメバチ科:ケンオナガヒメバチ亜科)の分類学的研究	J201 ○松本 圭司 <sup>1</sup> ・後藤 慎介 <sup>1</sup> ・志賀 向子 <sup>1</sup> ・末次 克行 <sup>2</sup> ・田中 良明 <sup>2</sup> ・小滝 豊美 <sup>2</sup> ・篠田 徹郎 <sup>2</sup> (大阪市大・院理 <sup>1</sup> ・生物研 <sup>2</sup> ) チャバネアオカメムシの幼若ホルモン合成抑制ペプチド	K201 伊藤 桂 (高知大) 常緑性のササに寄生するハダニの休眠時期を決める要因	L201 ○遅沢 壮一 <sup>1</sup> ・初宿 成彦 <sup>2</sup> ・John Wakabayashi <sup>3</sup> (東北大学 <sup>1</sup> ・大阪自然史博物館 <sup>2</sup> ・California State University <sup>3</sup> ) ニイニゼミ属の琉球と台湾に於ける一斉種分化	U201 ○沓掛 磨也 <sup>1</sup> ・森山 実・深津 武馬 (産総研・生物プロセス) モンゼンイスアブラムシ兵隊が示すゴール修復の分子基盤と共生細菌プフレラの関与	10:00
H202 ○森下 正彦 <sup>1</sup> ・木村 学 <sup>2</sup> (和歌山県海南市 <sup>1</sup> ・和歌山かき・もも研 <sup>2</sup> ) スギ・ヒノキ花粉飛散数による果樹カメムシ類の被害予測:最近の状況	I202 ○稲岡 悠輔 <sup>1</sup> ・小西 和彦 <sup>2</sup> (愛媛大・農学部 <sup>1</sup> ・愛媛大・ミュージアム <sup>2</sup> ) 日本産 <i>Microleptes</i> 属の頭楯に突起をもたないグループの分類	J202 ○弼川 琢巳・篠田 徹郎・伊藤 由果 (生物研) 幼若ホルモンによる成虫化決定因子 <i>E93</i> の抑制分子機構	K202 ○澤村 信生・奈良井 祐隆 (島根農技セ) マツモトコナカイガラムシの休眠覚醒時期について	L202 ○高倉 武 <sup>1</sup> ・竹松 葉子 <sup>1</sup> ・三浦 一芸 <sup>2</sup> (山口大・農 <sup>1</sup> ・近中四農研セ <sup>2</sup> ) 琉球産ヤマトシロアリ属のミトコンドリア及び核DNAに基づく分子系統解析と琉球列島における分布形成	U202 原野 健一 (玉川大・ミツバチ科学) コマルハナバチの雄における配偶者探索と燃料補給 (予報)	10:15
H203 山岸 正明 (沖縄病害虫センター) 黄色粘着トラップとプロテイン毒餌トラップ-これらのトラップでナスミバエ成虫をモニターすることができるか?-	I203 小西 和彦 (愛媛大ミュージアム) ラオスで採集されたアメバチモドキ属(ヒメバチ科)	J203 ○金児 雄・高木 圭子・比留間 潔 (弘前大・農学生命) 幼若ホルモンによるVerson's gland蝸 COMMITメント抑制作用の分子機構	K203 ○河合 章・太田 泉・武田 光能 (野菜茶研) ネギハモグリバエの休眠	L203 ○竹松 葉子 <sup>1</sup> ・高倉 武 <sup>1</sup> ・三浦 一芸 <sup>2</sup> (山口大・農 <sup>1</sup> ・近中四農研セ <sup>2</sup> ) 琉球産ヤマトシロアリ属(ミゾガシラシロアリ科)の分子系統に基づく分類形質評価	U203 ○光畑 雅宏 <sup>1</sup> ・本居 聡子 <sup>2</sup> (アリス ｸﾗｲｱｲﾝｽ (株) <sup>1</sup> ・千葉県君津農業事務所 <sup>2</sup> ) パッションフルーツにおける在来種クロマルハナバチの受粉効果 (予報)	10:30
H204 ○豊里 哲也 <sup>1</sup> ・照屋 清仁 <sup>2</sup> ・原口 大 <sup>3</sup> ・本間 淳 <sup>1,4</sup> (琉球産経(株) <sup>1</sup> ・沖縄防技セ <sup>2</sup> ・沖縄農研セ <sup>3</sup> ・琉大農 <sup>4</sup> ) イモゾウムシライトトラップの改良	I204 藤江 隼平 (大阪自然史博外来研) 日本産ハラダカコマユバチ亜科の分類学的研究	J204 ○Vea Isabelle <sup>1</sup> ・Tanaka Sayumi <sup>1</sup> ・Shiotsuki Takahiro <sup>2</sup> ・Joraku Akiya <sup>2</sup> ・Minakuchi Chieka <sup>1</sup> (Nagoya University <sup>1</sup> ・NIAS <sup>2</sup> ) Role of broad in scale insect juvenile hormone signaling and male quiescent stages	K204 ○泉 洋平 <sup>1</sup> ・村上 果生 <sup>2</sup> ・古川 義純 <sup>3</sup> (島根大・生資 <sup>1</sup> ・島根大院・生資 <sup>2</sup> ・北大・低温研 <sup>3</sup> ) 体液の水結晶成長がニカメイガの耐凍性におよぼす影響	L204 ○大谷 剛生 <sup>1</sup> ・東城 幸治 <sup>2</sup> (信州大院・理工学 <sup>1</sup> ・信州大・理 <sup>2</sup> ) 東アジア産カマキリ類のハビタット特性および集団構造・遺伝構造の比較検討	U204 ○松山 日名子・小野 正人 (玉川大・院・農) 実験条件下においてクロマルハナバチ女王に人工的に巢の引継ぎをさせたときのコロニー発達へ及ぼす影響	10:45

3月27日(日) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
11:00	A205 ○櫻井 健志 <sup>1</sup> ・塩田 裕介 <sup>1</sup> ・大門 高明 <sup>2</sup> ・光野 秀文 <sup>1</sup> ・神崎 亮平 <sup>1</sup> (東大先端研 <sup>1</sup> ・生物研 <sup>2</sup> ) フェロモン結合タンパク質遺伝子ノックアウトカイコガの生理・行動解析	B205 ○中川 浩二・溝部 信二(山口農林総セ)クロリアニジン剤で選抜したトビイロウンカの各種薬剤に対する感受性変化	C205 ○佐渡山 安常・大田 守也・谷口 昌弘(沖縄防技セ) 2015年 沖縄県におけるミカンコミバエの誘殺状況と対策	D205 ○城塚 可奈子・柴尾 学・岡田 清嗣(大阪環農水研) メタリジウム粒剤に対する各種薬剤の影響	E205 ○石川 博司・大野 徹(愛知農総試) 愛知県のイネ、コムギ、ダイズ輪作地帯におけるミナミアオカメムシの発生予測手法	F205 市川 憲平 <sup>1,2</sup> (姫路市立水族館 <sup>1</sup> ・姫路飾西高校自然科学部 <sup>2</sup> ) 絶滅危惧種トゲナバブタムシは三面コンクリート水路が好き	G205 ○屋良 佳緒利 <sup>1</sup> ・下田 武志 <sup>2</sup> ・佐藤 安志 <sup>2</sup> (野菜茶業研究所・金谷 <sup>1</sup> ・中央農業総合研究センター <sup>2</sup> ) チャ害虫チャトゲコナジラミの天敵寄生蜂シルベストリコバチにおける簡易採集法・飼育法の検討
11:15	A206 ○大村 尚 <sup>1</sup> ・奥村 裕紀子 <sup>2</sup> ・大関 志 <sup>2</sup> ・伊藤 隆夫 <sup>3</sup> ・太田 伸二 <sup>1</sup> (広島大・院・生物園 <sup>1</sup> ・広島大・生物生産 <sup>2</sup> ・広島大・院・総合科学 <sup>3</sup> ) 発香鱗をもたないツマキチョウ雄成虫の翅より揮発するテルペノイド化合物	B206 ○井手 真奈美 <sup>1</sup> ・鍵野 優子 <sup>1</sup> ・小嶺 正敬 <sup>1</sup> ・大津 礼子 <sup>2</sup> ・大江 高穂 <sup>3</sup> ・藤井 智久 <sup>4</sup> ・真田 幸代 <sup>4</sup> ・松村 正哉 <sup>4</sup> (長崎防除所 <sup>1</sup> ・長崎県央振興局 <sup>2</sup> ・宮城古川農試 <sup>3</sup> ・九州沖縄農研 <sup>4</sup> ) 長崎県におけるヒメトビウンカの薬剤感受性の長期的な推移	C206 ○松山 隆志 <sup>1</sup> ・照屋 清仁 <sup>1</sup> ・佐渡山 安常 <sup>1</sup> ・本間 淳 <sup>2,3</sup> (沖縄防技セ <sup>1</sup> ・琉球産経 <sup>2</sup> ・琉大・農 <sup>3</sup> ) アリモドキンウムシはやっぱり海を越えていた！-津堅島におけるアリモドキンウムシ根絶防除事業-	D206 ○溝部 信二・友廣 大輔(山口農林総セ) メタリジウムアミノグリコ粒剤によるバラのミカンキイロアザミウマとヒラズハナアザミウマの防除対策	E206 ○水谷 信夫 <sup>1</sup> ・西野 実 <sup>2</sup> (九州沖縄農研 <sup>1</sup> ・三重農研 <sup>2</sup> ) コムギ、水稻、ダイズにおけるミナミアオカメムシとアオクサカメムシの分布および発生量	F206 ○原田 哲夫 <sup>1</sup> ・馬本 典交 <sup>1</sup> ・古木 隆寛 <sup>1</sup> ・大岡 航 <sup>2</sup> (高知大・院・環境生理 <sup>1</sup> ・京都大・医・人間健康 <sup>2</sup> ) スマトラ島沖50km定点におけるウミアメンボ生息様態と形態的特徴	G206 ○杖田 浩二 <sup>1</sup> ・手柴 真弓 <sup>2</sup> ・澤村 信生 <sup>3</sup> (岐阜農技セ <sup>1</sup> ・福岡農総試 <sup>2</sup> ・島根農技セ <sup>3</sup> ) サワダトビコバチのフジコナカイガラムシ捕食量

3月28日(月) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
10:00	A301 ○安居 拓恵 <sup>1</sup> ・辻井 直 <sup>1</sup> ・鈴木 敏夫 <sup>2</sup> ・萩原 久大 <sup>3</sup> ・風間 祐輝 <sup>3</sup> ・小野 裕嗣 <sup>4</sup> (農業生物資源研 <sup>1</sup> ・新潟大学工学部 <sup>2</sup> ・新潟大院自然科学 <sup>3</sup> ・食総研 <sup>4</sup> ) ゴマダラカミキリのコンタクトフェロモン Gomadalactone C と類縁体の活性	B301 ○井上 美樹 <sup>1</sup> ・今村 香織 <sup>2</sup> ・岡崎 真一郎 <sup>1</sup> (大分農林水産研 <sup>1</sup> ・大分南部振興局 <sup>2</sup> ) イチゴで採集したヒラズハナアザミウマの各種薬剤に対する殺虫効果	C301 ○井鍋 大祐 <sup>1</sup> ・市原 実 <sup>1</sup> ・宮田 祐二 <sup>1</sup> ・白鳥 孝太郎 <sup>1</sup> ・中野 亮平 <sup>1</sup> ・中村 浩也 <sup>2</sup> (静岡県農林技術研究所 <sup>1</sup> ・株式会社丸文製作所 <sup>2</sup> ) 自走式蒸気処理防除機を利用した過熱水蒸気処理によるスクミリンゴガイ防除	D301 ○濱本 卓・武田 千秋・三谷 滋・森田 雅之・吉田 潔充(石原産業株式会社) 新規殺虫剤シクラニリプロールに関する研究(第2報) -作用特性を中心に-	E301 ○Ogino Takumi <sup>1,2</sup> ・Uehara Takuya <sup>2</sup> ・Yamaguchi Terumi <sup>2</sup> ・Ichihashi Takahisa <sup>3,2</sup> ・Suzuki Takahiro <sup>3</sup> ・Kainoh Yooichi <sup>1</sup> ・Shimoda Masami <sup>2</sup> (Univ. Tsukuba, Life&Env <sup>1</sup> ・NIAS <sup>2</sup> ・SHIGRAY Inc <sup>3</sup> ) Attracting the predatory bug, <i>Orius sauteri</i> , with light in eggplant field	F301 福井 昌夫(京大院・昆虫生理) チャープとトリルから見たタイワンエンマコオロギの求愛歌	G301 ○安田 慶次 <sup>1</sup> ・喜友名 朝次 <sup>1</sup> ・玉城 雅範 <sup>1</sup> ・松尾 和典 <sup>2</sup> ・徳田 誠 <sup>3</sup> ・上地 奈美 <sup>4</sup> ・喜久村 智子 <sup>5</sup> ・湯川 淳一 <sup>6</sup> (沖森研セ <sup>1</sup> ・九大院比文 <sup>2</sup> ・佐賀大農 <sup>3</sup> ・農研機構果樹研 <sup>4</sup> ・沖農セ <sup>5</sup> ・九大 <sup>6</sup> ) デイゴヒメコバチ <i>Quadrastichus erythrinae</i> (以下Qe) の天敵イゴカタビロコバチ <i>Eurytoma erythrinae</i> (以下、Ee) の寄主範囲の検討

3月27日(日)午前 一般講演

H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	U会場	
H205 ○藤田 和久 <sup>1</sup> ・平江 雅宏 <sup>2</sup> (光産業創成大学院大 <sup>1</sup> ・中央農研 <sup>2</sup> ) 水稻発生子察用の緑色大型LED光源の検討と捕虫性能	I205 ○太田 泉 <sup>1</sup> ・上杉 龍士 <sup>2</sup> ・豊田 周子 <sup>1</sup> (農研機構野茶研 <sup>1</sup> ・農研機構中央農研 <sup>2</sup> ) DNAバーコーディングによるギフアブラバチと同属異種アブラバチ類との識別	J205 ○大門 高明 <sup>1</sup> ・瀬筒 秀樹 <sup>1</sup> ・伴野 豊 <sup>2</sup> ・篠田 徹郎 <sup>1</sup> (農業生物資源研究所 <sup>1</sup> ・九州大学 <sup>2</sup> ) ホメオボックス遺伝子によるカイコ幼虫脱皮回数への制御	K205 檜垣 守男 (農研機構果樹研・盛岡) モモチョッキリの1年型と2年型の決定に関わる環境要因	L205 ○Rahman Md Mamunur・Hosoishi Shingo・Ogata Kazuo (九大・熱研センター) バングラデシュのツムギアリ個体群の分岐年代と分布形成過程	U205 ○渡辺 雅美・山舗 直子 (酪農学園大学院・発生物) 低温におけるセイヨウミツバチの行動	11:00
H206 ○西村 卓真・塚本 敬之・山本 雅則・江波 義成 (滋賀病防) 緑色LED光源を利用した予察灯の水稻害虫に対する誘引性能評価	I206 渡辺 恭平 (神奈川県) 日本産ウスマルヒメバチ族Banchini (ヒメバチ科、ウスマルヒメバチ亜科) の分類学的研究	J206 ○長峯 啓佑・星崎 杉彦・石川 幸男 (東大院・農・応用昆虫) キボシカミキリ <i>Psacotha hilaris</i> (鞘翅目) における蛹化運命の決定タイミング	K206 ○金城 聖良 <sup>1</sup> ・松山 隆志 <sup>1</sup> ・大石 毅 <sup>1</sup> ・照屋 清仁 <sup>1</sup> ・本間 淳 <sup>2</sup> (沖縄防技セ <sup>1</sup> ・琉球産経 <sup>2</sup> ) 沖縄県大量増殖ウリミバエにおける羽化時刻の変化	L206 ○細石 真吾・緒方 一夫 (九大熱研センター) マカラング共生アリと類似したシリアゲアリ類の系統的位 置・形質進化	U206 ○山口 悠太 <sup>1</sup> ・宇賀神 篤 <sup>2</sup> ・小野 正人 <sup>1</sup> (玉川・院・農 <sup>1</sup> ・玉川・院・農・学振PD <sup>2</sup> ) ニホンミツバチにおける熱殺蜂球形成に伴うコストとその軽減戦略	11:15

3月28日(月)午前 一般講演

H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	U会場	
H301 ○平江 雅宏・柴 卓也・石島 力 (中央農研) ヒメトビウンカを効率的に誘殺する黄色粘着板の種類検討	I301 ○吉田 昭広 <sup>1</sup> ・手嶋 伸 <sup>2</sup> ・佐久間 正幸 <sup>2</sup> ・坂巻 祥孝 <sup>3</sup> ・児玉 隆治 <sup>1</sup> (基生研・構造多様性 <sup>1</sup> ・京大院・農 <sup>2</sup> ・鹿児島大・農 <sup>3</sup> ) 小蛾類の翅辺縁部の細長い鱗粉には枝分かれがある	J301 ○田中 一裕 <sup>1</sup> ・渡 康彦 <sup>2</sup> (宮城学院女子大・学芸 <sup>1</sup> ・芦屋大学・生命工学 <sup>2</sup> ) 温度較差がカイコの羽化時刻におよぼす影響 (II)	K301 大庭 伸也 (長崎大・教育・生物) 増加・北上するコガタノゲンゴロウの生態と行動	L301 ○吉富 博之 <sup>1</sup> ・志戸岡 直希 <sup>2</sup> ・林 成多 <sup>3</sup> (愛媛大学 <sup>1</sup> ・鹿屋市 <sup>2</sup> ・ホシザキグリーン財団 <sup>3</sup> ) 東西対決—中四国地方のコバネガの分布	U301 佐々木 謙 (玉川大・農) セイヨウミツバチの栄養摂取による脳内ドーパミン量への影響	10:00

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
10:15	A302 ○中牟田 潔 <sup>1</sup> ・Yunfan Zou <sup>2</sup> ・Claire E Rutledge <sup>3</sup> ・Chris T Maier <sup>3</sup> ・Lawrence M Hanks <sup>4</sup> ・Austin B Richards <sup>5</sup> ・Emerson S Lacey <sup>2</sup> ・Jocelyn G Millar <sup>2</sup> (千葉大・院・園芸・Univ California, Riverside <sup>2</sup> ・Connecticut Agric Exp Str <sup>3</sup> ・Univ of Illinois, Urbana <sup>4</sup> ・California State Univ <sup>5</sup> ) ヒメスギカミキリのフェロモンと協力作用を示す新規天然物の同定	B302 ○米田 恵美 <sup>1</sup> ・岡崎 真一郎 <sup>2</sup> ・佐藤 善人 <sup>1</sup> (大分農林水研花き <sup>1</sup> ・大分農林水研農業 <sup>2</sup> ) 施設輪ギクにおけるミナミキイロアザミウマの発生活長と各種薬剤の殺虫効果	C302 ○川田 祐輔・松田 広子・大矢 武志 (神奈川県農技セ) 高濃度二酸化炭素くん蒸処理によるハダニ類防除の現地実証	D302 ○加嶋 崇之 <sup>1,3</sup> ・上宮 健吉 <sup>1</sup> ・吉田 潔充 <sup>1</sup> ・大西 純 <sup>2</sup> ・北村 登史雄 <sup>2</sup> ・有本 裕 <sup>3</sup> (石原産業株式会社 <sup>1</sup> ・農研機構野菜茶業研 <sup>2</sup> ・理化学研究所 <sup>3</sup> ) 新規コナジラミ成虫行動制御剤、アセチル化グリセリド乳剤(ベミデタッチ乳剤)のタバココナジラミ成虫に対する生物作用特性	E302 ○河野 勝行・飯田 博之・北村 登史雄・武田 光能 (農研機構野菜茶業研究所) キャベツ圃場における被覆作物の同時栽培とチョウ目害虫の除去が地表徘徊性捕食性天敵の個体数に与える影響	F302 ○横井 智之・渡辺 守 (筑波大・院・生命環境) 単独性ハナバチのメスによる越冬集団形成と卵巣発達	G302 ○Rebecca Kittel・Kaoru Maeto (Kobe University) <i>Habrobracon hebetor</i> - a species complex?
10:30	A303 ○深谷 緑 <sup>1,2</sup> ・桐山 哲 <sup>1</sup> ・安居 拓恵 <sup>3</sup> (日大生物資源 <sup>1</sup> ・東大院農 <sup>2</sup> ・生物研 <sup>3</sup> ) 侵入害虫クビアカツヤカミキリの配偶行動と性フェロモンの存在	B303 ○志賀 紗智 <sup>1</sup> ・上杉 龍士 <sup>2</sup> (宮城防除所 <sup>1</sup> ・中央農研 <sup>2</sup> ) 宮城県のコナガの薬剤感受性に関する知見	C303 ○奈良井 祐隆 <sup>1</sup> ・金森 健一 <sup>1</sup> ・山根 涉 <sup>2</sup> (島根農技セ <sup>1</sup> ・島根中山間セ <sup>2</sup> ) ネット被覆による露地ナス圃場の害虫防除	D303 ○上宮 健吉 <sup>1</sup> ・加嶋 崇之 <sup>1</sup> ・吉田 潔充 <sup>1</sup> ・有本 裕 <sup>2</sup> (石原産業株式会社 <sup>1</sup> ・理化学研究所 <sup>2</sup> ) アセチル化グリセリドのタバココナジラミに対する配偶行動阻害効果	E303 ○安部 順一郎 <sup>1</sup> ・日本 典秀 <sup>2</sup> (農研機構近畿農研 <sup>1</sup> ・農研機構中央農研 <sup>2</sup> ) 露地でのヒメハナカメムシ類、ヒラタアブ類の有効利用に向けた天敵温存植物 <sup>4</sup> 草種の比較	F303 都野 展子 (金沢大理工) 外来種アメリカシロヒトリの生活史の変化	G303 ○高須 啓志・Jacqueline Makatiani (九大・院農) 単寄生性寄生蜂オオタバコガコマユバチの交尾相手の選択
10:45	A304 ○大池 昌裕 <sup>1</sup> ・金山 祥子 <sup>1</sup> ・若村 定男 <sup>1</sup> ・松山 茂 <sup>2</sup> (京都学園大 <sup>1</sup> ・筑波大 <sup>2</sup> ) クロコガネの性フェロモンとオスの定位行動	B304 ○北林 聡 <sup>1</sup> ・杉山 薫 <sup>1</sup> ・山戸 潤 <sup>2</sup> ・桑澤 久仁厚 <sup>1</sup> ・野口 忠久 <sup>1</sup> ・吉沢 栄治 <sup>1</sup> (長野野花試 <sup>1</sup> ・長野野花試佐久支場 <sup>2</sup> ) 長野県内数か所から採取したコナガのジアミド系殺虫剤等に対する薬剤感受性	C304 新井 朋徳 (農研機構・果樹研) 光反射シートマルチのフタテンヒメヨコバイに対する年間を通じた密度抑制効果	D304 ○大西 純 <sup>1</sup> ・北村 登史雄 <sup>1</sup> ・加嶋 崇之 <sup>2</sup> (農研機構野菜茶研 <sup>1</sup> ・石原産業 <sup>2</sup> ) アセチル化グリセリド処理によるタバココナジラミのTYLCV媒介抑制と成虫保毒率への影響評価	E304 ○片山 晴喜・増井 伸一 (静岡果樹研セン) カンキツ園における草生栽培と炭酸カルシウム微粉末剤を中心としたハダニ類土着天敵保護防除体系	F304 今井 利宏 (JT葉たばこ研) クロメンガタズメはなぜ再びタバコ害虫化したのか?	G304 ○釘宮 聡一 <sup>1</sup> ・下田 武志 <sup>2</sup> ・安部 洋 <sup>3</sup> (農環研 <sup>1</sup> ・中央農研 <sup>2</sup> ・理研BRC <sup>3</sup> ) コナガサムライコマユバチを誘引する花香成分がコナガの産卵に及ぼす影響

H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	U会場	
H302 ○柴 卓也 <sup>1</sup> ・平江 雅宏 <sup>1</sup> ・早野 由里子 <sup>1</sup> ・上松 寛 <sup>1,2</sup> ・笹谷 孝英 <sup>1,3</sup> ・樋口 博也 <sup>1,4</sup> ・大藤 泰雄 <sup>1</sup> ・奥田 充 <sup>1</sup> (中央農研 <sup>1</sup> ・横浜植防 <sup>2</sup> ・九沖農研 <sup>3</sup> ・龍谷大学 <sup>4</sup> ) ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の季節変動	I302 ○屋宜 禎央 <sup>1</sup> ・広渡 俊哉 <sup>2</sup> ・平野 長男 <sup>3</sup> (九大院・生資環・昆虫 <sup>1</sup> ・九大院・農・昆虫 <sup>2</sup> ・松本市 <sup>3</sup> ) バラ科を寄主とする日本産 <i>Ectoedemia</i> 属(チョウ目, モグリチビガ科)の未同定種	J302 ○渡 康彦 <sup>1</sup> ・宮崎 洋祐 <sup>2</sup> ・後藤 慎介 <sup>3</sup> ・田中 一裕 <sup>4</sup> (芦屋大・臨床教育 <sup>1</sup> ・芦屋大・院教 <sup>2</sup> ・大阪市大・院理 <sup>3</sup> ・宮城学院女子大・一般教育 <sup>4</sup> ) キイロシヨウジョウバエの羽化時刻は温度周期によって決まるか?	K302 ○小澤 朗人・内山 徹(静岡茶研センター) 茶園におけるウスイロマルカイガラムシ <i>Aspidiotus destructor</i> Signoretの生活史と土着天敵相	L302 渡部 英昭(北教大・札幌・生物) 東アジアにおけるクロシヨウジョウバエ類の適応放散	U302 ○土田 浩治 <sup>1</sup> ・浅井 一行 <sup>1</sup> ・渡邊 大 <sup>2</sup> ・杉目 康広 <sup>2</sup> ・三浦 徹 <sup>2</sup> ・佐々木 謙 <sup>3</sup> ・横井 翔 <sup>4</sup> (岐阜大・応用生物 <sup>1</sup> ・北大・地球環境科学 <sup>2</sup> ・玉川大・農 <sup>3</sup> ・農業生物資源研 <sup>4</sup> ) フトモンアシナガバチの産卵ワーカーは女王型の個体なのか?	10:15
H303 ○日高 春美・斎藤 伸弘・寺本 敏(宮崎総農試) トビイロウンカ発生予測に用いる気温データとしてのアメダスと水田内測定値との比較検討	I303 ○Zhuang Hailing <sup>1,2</sup> ・Owada Mamoru <sup>3</sup> ・Yago Masaya <sup>1</sup> ・Wang Min <sup>2</sup> (東京大・総研博 <sup>1</sup> ・華南農業大・昆虫 <sup>2</sup> ・国立科博・動物 <sup>3</sup> ) A revisional study of the moth family Thyatiridae (Lepidoptera) from Yunnan, China	J303 清水 悠太・○後藤 慎介(大阪市大・院理) マダラスズ休眠卵の細胞周期と発生の制御機構	K303 ○阿部 成人・中西 友章・今井 健司・武知 耕二(徳島農総技セ) 徳島県におけるピワキジラムシの発生状況	L303 ○加藤 寛 <sup>1</sup> ・村井 保 <sup>2</sup> ・園田 昌司 <sup>1</sup> (宇都宮大農 <sup>1</sup> ・アグリクリニック研究所 <sup>2</sup> ) アブラムシ寄生性タマバエ <i>Endaphis muraii</i> の系統解析	U303 ○吉村 英翔・山田 佳廣(三重大院・生物資源) ワーカーになるべきか、越冬女王になるべきか:羽化後の日長が重要	10:30
H304 ○井上 広光 <sup>1</sup> ・宮路 克彦 <sup>2</sup> (農研機構・果樹研 <sup>1</sup> ・鹿児島農総セ・果樹部 <sup>2</sup> ) 鹿児島県奄美群島でカンキツグリーニング病の拡散を防止するためのミカンキジラムシの重点的防除時期	I304 ○小林 茂樹 <sup>1</sup> ・佐藤 宏明 <sup>2</sup> ・広渡 俊哉 <sup>3</sup> (大阪府大院・生命・昆虫 <sup>1</sup> ・奈良女子大・理 <sup>2</sup> ・九大院・農・昆虫 <sup>3</sup> ) 日本産ムモンハモグリガ科(鱗翅目)の学名未決定種4種と潜孔の特徴	J304 ○森山 実 <sup>1,2</sup> ・二橋 亮 <sup>1</sup> ・深津 武馬 <sup>1</sup> (産総研・生物プロセス <sup>1</sup> ・学振PD <sup>2</sup> ) チャバネアオカメムシの休眠色を誘導する分子生理機構	K304 齋藤 大郎(沖縄県那覇市) 沖縄県産エダナナフシ属の生態に関する知見	L304 ○湯川 淳一 <sup>1</sup> ・キム ワンギユウ <sup>2</sup> ・奥那嶺 要 <sup>3</sup> ・喜久村 智子 <sup>4</sup> ・上地 奈美 <sup>5</sup> ・徳田 誠 <sup>6</sup> ・岩崎 暁生 <sup>7</sup> ・橋本 直樹 <sup>8</sup> ・角野 晶大 <sup>8</sup> (九大 <sup>1</sup> ・九大院・農・昆虫 <sup>2</sup> ・沖縄中部普及セ <sup>3</sup> ・沖縄農研セ <sup>4</sup> ・農研機構・果樹研 <sup>5</sup> ・佐大・農 <sup>6</sup> ・道総中央農試 <sup>7</sup> ・道総研花野菜 <sup>8</sup> ) 旧北区各地でほぼ同時に発見された新害虫トマトウロコタマバエの続報	U304 上野 高敏(九州大・農・生防研) 特定外来生物ツマアカスズメバチの捕食行動	10:45



	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
11:00	A305 ○尾崎 まみこ <sup>1</sup> ・池田 凌 <sup>1</sup> ・先田 智也 <sup>1</sup> ・北條 賢 <sup>1</sup> ・松原 亮介 <sup>2</sup> (神戸大・院理・生物 <sup>1</sup> ・神戸大・院理・化学 <sup>2</sup> ) クロオオアリ化学交信のための化学成分がアルゼンチンアリに忌避効果を持つ	B305 ○浅野 美和 <sup>1</sup> ・上樂 明也 <sup>1</sup> ・内山 徹 <sup>2</sup> ・末次 克行 <sup>1</sup> ・大門 高明 <sup>1</sup> ・小林 徹也 <sup>1</sup> ・小澤 朗人 <sup>2</sup> ・秋月 岳 <sup>1</sup> ・篠田 徹郎 <sup>1</sup> (生物研 <sup>1</sup> ・静岡茶研センター <sup>2</sup> ) チャノココクモンハマキにおけるジアシルヒドラジン系IGR剤抵抗性原因遺伝子の解析	C305 永峯 淳一(山形農総研セ)夏どり食用ギクの雨よけ栽培におけるアザミウマ類の発生消長と赤色防虫ネットの密度抑制効果	D305 ○北村 登史雄 <sup>1</sup> ・大西 純 <sup>1</sup> ・加嶋 崇之 <sup>2</sup> (農研機構 野菜茶業研究所 <sup>1</sup> ・石原産業 <sup>2</sup> ) アセチル化グリセリドによるタバコナジラミの吸汁行動に対する影響	E305 ○川口 悦史 <sup>1</sup> ・星 博綱 <sup>1</sup> ・日本 典秀 <sup>2</sup> ・荒川 昭弘 <sup>1</sup> ・瀧田 克典 <sup>3</sup> ・佐々木 正剛 <sup>4</sup> (福島農総セ果研 <sup>1</sup> ・中央農研 <sup>2</sup> ・福島県観光交流局 <sup>3</sup> ・福島県植協会 <sup>4</sup> ) モモにおける土着天敵類によるハダニ類管理技術	F305 ○上田 明良 <sup>1</sup> ・末吉 昌宏 <sup>1</sup> ・堀野 真一 <sup>2</sup> (森林総研九州 <sup>1</sup> ・森林総研 <sup>2</sup> ) シカ死骸横に設置したピットフォールトラップに捕獲された甲虫類の経時的変化	G305 ○藏満 司夢 <sup>1,2</sup> ・戒能 洋一 <sup>1</sup> (筑波大・生命環境・学振DC1 <sup>2</sup> ) 寄主が摂取したカラシ油成分がカリヤコマムバチの寄生に与える影響
11:15	A306 ○内藤 幸世・堀 雅敏(東北大院農) イネ穂成分が斑点米カメムシの吸汁行動に与える影響	B306 ○刑部 正博 <sup>1</sup> ・杉本 直也 <sup>1</sup> ・井尻 悠士 <sup>1</sup> ・上樂 明也 <sup>2</sup> ・Sabina Bajda <sup>3</sup> ・Thomas Van Leeuwen <sup>4,3</sup> (京大院農 <sup>1</sup> ・生物研 <sup>2</sup> ・Univ. Amsterdam <sup>3</sup> ・Univ. Ghent <sup>4</sup> ) QTL解析によるピリダベン抵抗性遺伝子のナミハダニゲノムへのマッピング	C306 ○田中 雅也 <sup>1</sup> ・刑部 正博 <sup>2</sup> ・八瀬 順也 <sup>1</sup> ・神頭 武嗣 <sup>1</sup> ・内橋 嘉一 <sup>1</sup> ・佐藤 衛 <sup>3</sup> (兵庫農総セ <sup>1</sup> ・京大院農・生態情報 <sup>2</sup> ・農研機構 花き研究所 <sup>3</sup> ) UVB照射と光反射資材による施設イチゴの難防除病害虫(ハダニ類・アザミウマ類・うどんこ病)同時防除技術の開発	D306 ○鈴木 杏子・石川 博司・大野 徹(愛知農総試) 愛知県のトマトにおけるオンシツコナジラミの薬剤感受性	E306 ○里見 純一 <sup>1</sup> ・高部 真典 <sup>2</sup> ・堀 雅彦 <sup>3</sup> ・佐々木 恵美 <sup>4</sup> ・土田 裕之 <sup>5</sup> (アリスライフサイエンス(株) <sup>1</sup> ・山形県園芸試験場 <sup>2</sup> ・最上農業技術普及課 <sup>3</sup> ・西村山農業技術普及課 <sup>4</sup> ・さがえ西村山農協 <sup>5</sup> ) 雨除け栽培オウトウのハダニ防除に天敵利用は可能か? 続報	F306 杉浦 真治(神戸大・農) ミノムシの糞は被食防衛に有効か?	G306 ○一木 良子 <sup>1,2</sup> ・中原 雄一 <sup>3</sup> ・田端 純 <sup>4</sup> ・中松 豊 <sup>5</sup> ・田中 利治 <sup>6</sup> ・中村 達 <sup>1</sup> (国際農研 <sup>1</sup> ・学振RPD <sup>2</sup> ・農生研 <sup>3</sup> ・農環研 <sup>4</sup> ・皇學館大 <sup>5</sup> ・名古屋大 <sup>6</sup> ) 寄主の変態をめぐる寄生バチと寄生バエの対立(その1)
11:30	A307 ○西田 律夫 <sup>1</sup> ・中平 昌孝 <sup>1</sup> ・小野 肇 <sup>1</sup> ・K. H. Tan <sup>2</sup> (京大院農 <sup>1</sup> ・元マレーシア理大 <sup>2</sup> ) ミバエとランの変幻自在な送粉共生系-ミバエラン花香組成の多様性	B307 ○上樂 明也・桑崎 誠剛・宮本 和久・和田 早苗・山本 公子(生物研) ddRAD-seqによるタイと日本のコナガのジアミド剤抵抗性原因遺伝子のゲノムワイド探索	C307 ○宮田 恵佑 <sup>1,2</sup> ・園田 昌司 <sup>1</sup> ・村井 保 <sup>2</sup> (宇都宮大学 <sup>1</sup> ・(株)アグリクリニック研究所 <sup>2</sup> ) 高温を用いた高濃度炭酸ガス処理によるミカンキイロアザミウマ防除	D307 ○本田 善之・河村 俊和・岩本 哲弥(山口農林総合技術セ)ホウレンソウ播種前の藻類の繁茂がコナダニの増殖に与える影響	E307 ○三代 浩二 <sup>1</sup> ・土田 聡 <sup>1</sup> ・外山 晶敏 <sup>1</sup> ・岸本 英成 <sup>1</sup> ・望月 雅俊 <sup>1</sup> ・井原 史雄 <sup>1</sup> (農研機構果樹研) ナシ園の植生管理による土着天敵類の定着促進 4. 園地および周辺の本木類における天敵類の発生動態	F307 税所 康正(広島大学・工学研究院) セミの羽化日の分散が交尾率に与える影響について	G307 ○松尾 和典 <sup>1</sup> ・富田 真理紗 <sup>2</sup> ・三田 敏治 <sup>3</sup> ・田淵 研 <sup>4</sup> ・高橋 明彦 <sup>4</sup> ・降幡 駿介 <sup>5</sup> (九大院比文 <sup>1</sup> ・東京農大・農 <sup>2</sup> ・九大院・農・昆虫 <sup>3</sup> ・農研機構東北農研 <sup>4</sup> ・国立環境研 <sup>5</sup> ) 卵塊設置によるクサギカメムシ卵寄生蜂調査
11:45		B308 ○中村 有希 <sup>1</sup> ・上樂 明也 <sup>1</sup> ・桑崎 誠剛 <sup>1</sup> ・横井 翔 <sup>1</sup> ・秋月 岳 <sup>1</sup> ・真田 幸代 <sup>2</sup> ・松村 正哉 <sup>2</sup> ・篠田 徹郎 <sup>1</sup> (生物研 <sup>1</sup> ・九州沖縄農研 <sup>2</sup> ) トビイロウンカのイミダクロブリド抵抗性のddRAD-seq解析と遺伝子診断法		D308 ○生田 紘杜・平井 規央・石井 実(大阪府大院・昆虫) 白色連続光照射による昼行性害虫の発生状況の変化	E308 ○中西 友章・遠藤 隆行(徳島農総セ高度支援) 徳島県のナシ産地におけるヒメボクトウの総合的な防除技術の普及と課題	F308 ○鈴木 芳人 <sup>1</sup> ・高橋 智 <sup>2</sup> ・沼田 英治 <sup>3</sup> (京都市 <sup>1</sup> ・奈良女子大・環境 <sup>2</sup> ・京大・院理 <sup>3</sup> ) ニクバエの蛹休眠を誘導する臨界日長の性差の進化	G308 ○富田 真理紗 <sup>1</sup> ・三田 敏治 <sup>2</sup> (東京農大・農 <sup>1</sup> ・九大院・農・昆虫 <sup>2</sup> ) 卵寄生蜂3種のクサギカメムシ、ミナミアオカメムシ、チャパネアオカメムシに対する寄生能力の比較

H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	U会場	
H305 ○高篠 賢二 <sup>1</sup> ・豊島 真吾 <sup>1</sup> ・眞岡 哲夫 <sup>1</sup> ・上田 重文 <sup>1</sup> ・大木 健広 <sup>1</sup> ・三浦 一芸 <sup>2</sup> ・小西 和彦 <sup>3</sup> ・秋元 信一 <sup>4</sup> (農研機構・北農研 <sup>1</sup> ・農研機構・近中四農研 <sup>2</sup> ・愛媛大学 <sup>3</sup> ・北海道大学 <sup>4</sup> ) 黄色水盤で採集したアブラムシのビート西部萎黄ウイルス保毒検定の結果とマメクロアブラムシの媒介能の検討	I305 ○広渡 俊哉 <sup>1</sup> ・屋宜 禎央 <sup>2</sup> ・小林 茂樹 <sup>3</sup> ・安能浩 <sup>4</sup> (九大院・農・昆虫 <sup>1</sup> ・九大院・生資環・昆虫 <sup>2</sup> ・大阪府大院・生命・昆虫 <sup>3</sup> ・韓国国立資源館 <sup>4</sup> ) 日本産ハモグリガ科(鱸翅目)の分類に関する最近の知見	J305 ○菅原 亮平 <sup>1,2</sup> ・田中 誠二 <sup>1</sup> ・上樂 明也 <sup>1</sup> ・塩月 孝博 <sup>1</sup> (農生研 <sup>1</sup> ・学振 <sup>2</sup> ) コラソニン遺伝子はトノサマバッタの相変異において重要である	K305 ○西本 裕 <sup>1</sup> ・清水 晃 <sup>2</sup> ・遠藤 知二 <sup>3</sup> (宝塚市 <sup>1</sup> ・首都大学東京・理工 <sup>2</sup> ・神戸女学院大・人間科学 <sup>3</sup> ) 兵庫県宝塚市におけるシロオビヒゲクモバチ <i>Dipogon sperconsus</i> (クモバチ科、ヒゲクモバチ属) の生活史	L305 ○キム ワンギウ <sup>1</sup> ・松永 紀代子 <sup>2</sup> ・南 常雄 <sup>3</sup> ・湯川 淳一 <sup>4</sup> (九大院・農・昆虫 <sup>1</sup> ・筑紫野市 <sup>2</sup> ・旭川市 <sup>3</sup> ・九大 <sup>4</sup> ) コナラ属 <i>Quercus</i> (ブナ科) にゴールを形成する日本と韓国のタマバエ (ハエ目: タマバエ科)	U305 濱口 京子(森林総研関西) ハリナガムネボソアリ <i>Temnothorax spinosior</i> の女王の寿命について	11:00
H306 ○内田 一秀・村上 芳照・綿打 享子・功刀 幸博・望月 孝一(山梨果試) 山梨県内のモモに発生するカイガラムシの種類と幼虫発生期の有効積算温度	I306 ○長田 庸平 <sup>1</sup> ・坂井 誠 <sup>2</sup> ・黄国華 <sup>3</sup> ・広渡 俊哉 <sup>4</sup> (九大院・生資環・昆虫 <sup>1</sup> ・共生科学 <sup>2</sup> ・湖南農業大学 <sup>3</sup> ・九大院・農・昆虫 <sup>4</sup> ) 日本産 <i>Morophaga</i> 属(チョウ目ヒロズゴガ科)の分類学的研究および各種群の系統関係	J306 ○宇賀神 篤 <sup>1,2</sup> ・内山 博允 <sup>3</sup> ・宮田 徹 <sup>1</sup> ・佐々木 哲彦 <sup>4</sup> ・矢嶋 俊介 <sup>3</sup> ・小野 正人 <sup>1</sup> (玉川大・院農 <sup>1</sup> ・学振PD <sup>2</sup> ・東京農大・NGRC <sup>3</sup> ・玉川大・ミツバチ科学 <sup>4</sup> ) ミツバチにおける新規セリン/スレオニンキナーゼ型初期応答遺伝子の解析	K306 岩泉 連(横浜植防) 横浜内陸部におけるマイマイガ成虫の発生消長	L306 ○荒谷 邦雄 <sup>1</sup> ・小田切 顕一 <sup>1</sup> ・細谷 忠嗣 <sup>2</sup> (九大・院・比文 <sup>1</sup> ・九大・決断科学センター <sup>2</sup> ) 偶発的な分散は地域の主要ファウナ形成にどこまで寄与するか?	U306 増子 恵一(専修大・経営) イトウカギバラアリの血リンパ食について	11:15
H307 ○重久 眞至・近藤 博次・塚本 敬之・山本 雅則(滋賀農技セ) アカスジカスミカメの飛翔距離と水田内への侵入に関する推定	I307 ○矢代 敏久 <sup>1</sup> ・宮国 泰史 <sup>1</sup> ・松浦 健二 <sup>1</sup> ・竹松 葉子 <sup>2</sup> (京大院・農・昆虫生態 <sup>1</sup> ・山口大・農 <sup>2</sup> ) 琉球列島固有の乾材シロアリ(レイビシロアリ科)の発見	J307 ○竹田 真木 <sup>1</sup> ・ナズニン ナハール・井沢 満憲・アーメド ムハムド・クインニュー・平垣 進・大谷 剛(神戸大農学研究科) ミツバチ分業の制御機構としてのインドルアミン代謝系	K307 小俣 良介(埼玉茶研) 茶園におけるヒメアカホシテントウの発生消長と室内飼育条件下における生態	L307 ○大西 央士郎 <sup>1</sup> ・東城 幸治 <sup>2</sup> (信州大院・理工 <sup>1</sup> ・信州大・理 <sup>2</sup> ) ツチハンミョウ類の分子系統解析において検出された隠蔽系統の分類学的地位	U307 近藤 あずさ・秋野 順治(京都工芸繊維大学) クロクサアリに採餌分業はあるのか	11:30
	I308 ○山本 直 <sup>1</sup> ・神野 哲行 <sup>1</sup> ・山本 優 <sup>2</sup> ・平井 規央 <sup>1</sup> ・石井 実 <sup>1</sup> (大阪府大院・昆虫 <sup>1</sup> ・山口市下関市 <sup>2</sup> ) 浮遊・浮葉植物を食するユスリカ科(双翅目)の2種について	J308 ○松島 啓将 <sup>1</sup> ・目澤 龍介 <sup>2</sup> ・佐々木 謙 <sup>1</sup> (玉川大・院・農 <sup>1</sup> ・金沢工大・応用バイオ <sup>2</sup> ) セイヨウミツバチ雄の性成熟に伴ったドーバミン合成と受容体遺伝子発現	K308 ○貴志 学 <sup>1</sup> ・松野 茂富 <sup>2</sup> ・岸 茂樹 <sup>3</sup> (和歌山果試うめ研 <sup>1</sup> ・和歌山自然博 <sup>2</sup> ・国環研 <sup>3</sup> ) アカマダラケシキスイの生活史と雌雄の分布様式を決定する行動		U308 ○水野 理央 <sup>1</sup> ・Dang Van An <sup>2</sup> ・江口 克之 <sup>3</sup> ・伊藤 文紀 <sup>1</sup> (香川大・農 <sup>1</sup> ・ベトナム科学技術院 <sup>2</sup> ・首都大院・理工 <sup>3</sup> ) ベトナム南部産クレハリアリ <i>Cerapachys sexspinus</i> 種群の行動と生態	11:45

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
15:15	A309 ○菱川 雄紀 <sup>1</sup> ・秋野 順治 <sup>1</sup> ・堀元 栄枝 <sup>1</sup> ・近藤 陽香 <sup>1</sup> ・樋口 浩和 <sup>2</sup> ・塚田 森生 <sup>3</sup> (京工織大 <sup>1</sup> ・京大 <sup>2</sup> ・三重大 <sup>3</sup> ) チェリモヤの果実様花香はケンキスイを誘うのか?	B309 ○小橋 興次 <sup>1</sup> ・早坂 大亮 <sup>1</sup> (近畿大院・農・環境管理) ネオニコチノイドの連用の脅威	C309 ○櫻井 民人 <sup>1</sup> ・安部 洋 <sup>2</sup> ・富高 保弘 <sup>1</sup> ・大矢 武志 <sup>3</sup> ・松浦 昌平 <sup>4</sup> ・三富 正明 <sup>5</sup> ・津田 新哉 <sup>1</sup> (中央農研 <sup>1</sup> ・理研BRC <sup>2</sup> ・神奈川農技セ <sup>3</sup> ・広島総研農技セ <sup>4</sup> ・Meiji Seika ファルマ <sup>5</sup> ) ピーマンのアザミウマ被害に対するプロヒドロジャスモンの処理効果	D309 ○桐明 紗織・柳田 裕紹(福岡農林試) 施設バラにおける天敵製剤を活用したナミハダニ防除の可能性	E309 ○宮下 裕司・崎山 進二・金崎 秀司(愛媛農水研果研セ) ユキヤナギアブラムシに対する薬剤の効果不足要因の解明	F309 ○蔡 永海 <sup>1</sup> ・伊藤 桂 <sup>2</sup> ・福田 達哉 <sup>2</sup> ・荒川 良 <sup>2</sup> ・齋藤 裕 <sup>3</sup> (愛媛連大 <sup>1</sup> ・高知大 <sup>2</sup> ・農 <sup>2</sup> ・福建省農業科学院 <sup>3</sup> ) 2種のスゴモリハダニにおける雌の分布様式と雄間闘争の関係	G309 ○長坂 幸吉・勾坂 晶・光永 貴之(農研機構・中央農研) コレマンアブラバチ、ギフアブラバチ、ダイコンアブラバチ、ナゲルクロアブラバチの寄主範囲の比較
15:30	A310 ○勝手 智子・小野 肇(京大院農) 人工飼料を用いたアゲハ <i>Papilio xuthus</i> の寄主利用における潜在能力の検討	B310 ○松浦 明 <sup>1</sup> ・日高 春美 <sup>1</sup> ・土田 聡 <sup>2</sup> (宮崎総農試 <sup>1</sup> ・農研機構果樹研 <sup>2</sup> ) ネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシのきゅうりにおける増殖率	C310 ○浜崎 健児・城塚 可奈子・柴尾 学(地独)大阪環農水研) ミナミキイロアザミウマ1齢幼虫および成虫に対する各種薬剤の殺虫効果	D310 中野 昭雄(徳島農総技セ) ナスの促成栽培初期においてタバコカシカメの定着に及ぼすゴマ植栽の影響	E310 ○関根 崇行・鈴木 香深・増田 俊雄(宮城農園研) キャベツ栽培におけるカラシナ及び葉大根のリビングマルチとしての可能性	F310 長 泰行(千葉大院・応用昆虫) 混食する危険：混食したアザミウマに対するキイカブリダニの捕食	G310 ○光永 貴之・長坂 幸吉・後藤 千枝・日本典秀・上杉 龍士・守屋 成一(農研機構中央農研) 3種のマイナーアブラムシを寄主とした際のナゲルクロアブラバチの生態的パラメータの違いについて
15:45	A311 ○芝 祥太郎・長澤 淳彦・堀 雅敏(東北大院・農) 紅茶に含まれるタバコシバンムシの産卵刺激物質	B311 ○岡崎 真一郎 <sup>1</sup> ・姫野 和洋 <sup>1</sup> ・井上 美樹 <sup>1</sup> ・山崎 真居 <sup>1</sup> ・土田 聡 <sup>2</sup> (大分農林水産研 <sup>1</sup> ・農研機構果樹研 <sup>2</sup> ) 大分県におけるネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの発生実態	C311 渡辺 雅夫(山口大・理工学(理)) 種々の超音波パルス音に対するヨトウガの反応性	D311 ○中野 亮平・土井 誠・石川 隆輔(静岡農林技研) トマトにおけるタバコカシカメの利用(1)バンカー植物を併用した施設トマトのコナジラミ類防除体系	E311 ○竹内 博昭 <sup>1</sup> ・高橋 明彦 <sup>2</sup> (中央農研北陸研究セ <sup>1</sup> ・東北農研セ <sup>2</sup> ) マメシクイガの羽化数が低減する中耕時期	F311 ○大槻 初音・矢野 修一(京大院・農・生態情報) 分散可能な状況下でのハダニとカブリダニの攻防(3)	G311 ○小林 誠 <sup>1</sup> ・光永 貴之 <sup>2</sup> ・長坂 幸吉 <sup>2</sup> (栃木農試 <sup>1</sup> ・農研機構・中央農研 <sup>2</sup> ) ナゲルクロアブラバチ <i>Ephedrus nacheri</i> Quilisの性配分に及ぼす寄主体サイズの影響
16:00	A312 ○上地 俊久・大戸 謙二(横浜植防) 性成熟前のセグロモモミバエ雄に対する誘引剤：β-カリオフィレンはメチルオイゲノールより有効であるのか?	B312 ○岡本 崇 <sup>1</sup> ・土田 聡 <sup>2</sup> (和歌山農試 <sup>1</sup> ・農研機構果樹研 <sup>2</sup> ) ワタアブラムシの薬剤抵抗性遺伝子診断のための黄色水盤液の検討	C312 ○諏訪 明之・足立 康・高城 圭子・藤岡 伸祐・児玉 洋・坂田 和之(日本農薬株式会社) ピリフルキナゾン(コルト <sup>®</sup> )に対するコナジラミ類の感受性低下リスクと対策	D312 ○大井田 寛・木内 望(千葉県立農業大学校) トマトにおけるタバコカシカメの利用(2)育苗期放飼の試み	E312 ○大江 高穂・横堀 亜弥・加進 丈二(宮城古川農試) 宮城県におけるフタスジヒメハムシ天敵寄生蜂の発生実態	F312 ○矢野 修一・大槻 初音(京大院・農・生態情報) 分散可能な状況下でのハダニとカブリダニの攻防(4)	G312 ○柳沼 勝彦・伊藤 伝(農研機構果樹研リソゴ) 殺虫剤無散布リンゴ園におけるリンゴハマキロボバの発生と天敵寄生蜂について

H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	U会場	
H309 垣内 加奈子 (高知農技セ) モトジロアザミウマの加害がシントウの生育、収量に及ぼす影響	I309 末吉 昌宏 (森林総研九州) ムキタケなどの食用キノコ類の害虫となるヒメキノコバエ類	J309 ○緒方 法親 <sup>1</sup> ・古崎 利紀 <sup>2</sup> ・横山 岳 <sup>2</sup> ・秦 珠子 <sup>3</sup> ・岩淵 喜久男 <sup>2</sup> (株)日本バイオデータ <sup>1</sup> ・東京農工大学 <sup>2</sup> ・生物研 <sup>3</sup> ) 細胞の短期記憶	K309 ○松村 健太郎・宮竹 貴久 (岡山大・院・環境生命) よく歩く雌は多産で短命? 異なる歩行移動能力を示す集団間の繁殖と寿命のトレードオフ	L309 ○土岐 和多瑠 <sup>1</sup> ・松尾 進 <sup>2</sup> (京大・生態研センター <sup>1</sup> ・長崎市 <sup>2</sup> ) コメツキモドキ族における左右非対称な頭部形態の進化	U309 ○大河原 恭祐 <sup>1</sup> ・長 亜希子 <sup>1</sup> ・秋野 順治 <sup>2</sup> (金沢大・自然・生物 <sup>1</sup> ・京工織大・応用生物 <sup>2</sup> ) 社会寄生種ヤドリウメマツアリのブルード擬態 フェイクは本物を超える?	15:15
H310 ○横田 啓・福田 拓斗 (岩手県北農研) アザミウマはタマネギ腐敗に関与する? ~殺虫剤散布頻度がネギアザミウマ密度とタマネギ収量及び腐敗球の発生に及ぼす影響~	I310 三枝 豊平 (三枝昆虫自然史研究所) キノコバエ科 Gnoristini族に属する中国産の1未記載属について	J310 ○小寺 正明 <sup>1</sup> ・武藤 愛 <sup>2</sup> ・尾崎 克久 <sup>3</sup> (東京工業大学 <sup>1</sup> ・奈良先端科学技術大学院大学 <sup>2</sup> ・JT生命誌研究館 <sup>3</sup> ) データ統合とオミックス解析による昆虫・植物間相互作用解析と昆虫代謝予測	K310 ○前田 太郎 <sup>1</sup> ・坂本 佳子 <sup>2</sup> (生物研 <sup>1</sup> ・国環研 <sup>2</sup> ) ニホンミツバチのスズメバチ捕殺蜂球にアカリンダニがおよぼす影響	L310 ○丸山 宗利 <sup>1</sup> ・Taro Eldredge <sup>2</sup> ・Joseph Parker <sup>3</sup> (九州大・博 <sup>1</sup> ・カンザス大 <sup>2</sup> ・コロンビア大 <sup>3</sup> ) 好蟻性ハネカクシにおけるアリ型形態の多数回進化と前適応	U310 ○北條 賢 <sup>1</sup> ・重信 秀治 <sup>2</sup> ・光野 秀文 <sup>3</sup> ・石井 健一 <sup>4</sup> ・山口 勝司 <sup>2</sup> ・佐倉 緑 <sup>1</sup> ・神崎 亮平 <sup>3</sup> ・尾崎 まみこ <sup>1</sup> (神大・理 <sup>1</sup> ・基生研・生物機能 <sup>2</sup> ・東大・先端研 <sup>3</sup> ・Salk Institute <sup>4</sup> ) 社会性昆虫における体表炭化水素受容体遺伝子の探索	15:30
H311 ○渡邊 丈夫・相澤 美里・熊野 明美 (香川農試) ネギアザミウマの生殖系統とその見分け方について	I311 加藤 大智・○館 卓司 (九大院・比文・生物体系) 日本産ワラジムシヤドリバエ科の再検討 (双翅目: ヒツジバエ上科)	J311 ○津田 みどり・Than Lin Aung・Than Htway Lwin・鹿児嶋 久美子・森 一樹・田代 康介 (九大院・農) 大気中CO <sub>2</sub> 濃度上昇が異なる種内競争型のマメゾウムシの発育、個体群サイズ、および遺伝子発現に与える影響	K311 ○坂本 佳子 <sup>1</sup> ・前田 太郎 <sup>2</sup> ・芳山 三喜雄 <sup>3</sup> (国環研 <sup>1</sup> ・生物研 <sup>2</sup> ・畜草研 <sup>3</sup> ) ミツバチ2種間のアカリンダニに対するグルーミング行動の比較	L311 ○大澤 直哉 <sup>1</sup> ・林 仲平 <sup>2</sup> (京大院・農・森林生態 <sup>1</sup> ・台湾師範大・生命科学 <sup>2</sup> ) 台湾阿里山におけるマツ上で共存する2種類の <i>Harmonia</i> 属テントウムシ: クリサキテントウ <i>H. yedoensis</i> の再発見と <i>H. quadripunctata</i> の発見	U311 平田 圭 <sup>2</sup> ・○尾方 祥史 <sup>1</sup> ・渡邊 英博 <sup>1</sup> ・横張 文男 <sup>1</sup> (福岡大・理・地球圏 <sup>1</sup> ・なし <sup>2</sup> ) 社会性昆虫クロオオアリ雛状感覚子の巣仲間識別に関わる体表炭化水素受容	15:45
H312 ○前野 浩太郎 <sup>1,2</sup> ・中村 達 <sup>3</sup> ・Ould Babah Mohamed Abdallahi <sup>2</sup> (京大白眉 <sup>1</sup> ・モ国バツタ研 <sup>2</sup> ・国際農研 <sup>3</sup> ) サバクトビバッタの孤独相成虫におけるマイクロハビタット選択	I312 駒形 森 (東京農大・農) 害虫カメムシに寄生するマルボシヒラタハナバエの種分類	J312 ○福光 由起・佐藤 朝光・入江 圭一・上田 紗織・百武 美香・弟子丸 正伸・中島 幸彦・鹿志毛 信広・見明 史雄 (福大) ヒトスジシマカマイクロアレイを用いた宿主探索行動を制御する遺伝子の調査	K312 鈴木 誠治 (北大・農) ヨツボシモンシデムシのオスによる給餌を決めるもの~メスカ子か~		U312 ○藪下 正明 <sup>1</sup> ・秋野 順治 <sup>2</sup> ・山岡 亮平 (京工織大) クロオオアリのタスク識別に関わる特異的体表炭化水素	16:00

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
9:00	A401 ○大竹 潤 <sup>1</sup> ・大野 慧 <sup>1</sup> ・Gail Lowe <sup>2</sup> ・Stefano De Faveri <sup>2</sup> ・西田 律夫 <sup>1</sup> ・小野 肇 <sup>1</sup> (京大院・農 <sup>1</sup> ・クイーンズランド州農水局 <sup>2</sup> ) キュウリミバエの新規誘引物質の探索	B401 ○富田 隆史 <sup>1</sup> ・駒形 修 <sup>1</sup> ・糸川 健太郎 <sup>1</sup> ・小川 浩平 <sup>1</sup> ・葛西 真治 <sup>1</sup> ・陳 典煌 <sup>2</sup> ・鄧 華真 <sup>2</sup> (感染研 <sup>1</sup> ・台湾CDC <sup>2</sup> ) デング熱媒介蚊のピレスロイド作用点変異を対象とする簡易遺伝子型決定法の開発	C401 ○佐藤 信輔・草野 尚雄・鹿島 哲郎(茨城農総セ・園研) 合成ピレスロイド系殺虫剤散布が翌年のクリイガアブラムシの発生に及ぼす影響および春季の薬剤散布による多発生の抑制効果の検討	D401 ○下田 武志 <sup>1</sup> ・日本 典秀 <sup>1</sup> ・香川 理威 <sup>2</sup> ・森 光太郎 <sup>2</sup> ・大朝 真喜子 <sup>2</sup> ・今井 修 <sup>2</sup> ・吉田 潔充 <sup>2</sup> ・中島 哲男 <sup>3</sup> ・平岡 正 <sup>4</sup> (農研機構・中央農研 <sup>1</sup> ・石原産業(株) <sup>2</sup> ・石原バイオサイエンス(株) <sup>3</sup> ・大協技研工業(株) <sup>4</sup> ) 天敵カブリダニ類を保護・増殖するためのバンカーシート®の改良	E401 ○東浦 祥光・西 一郎(山口県農林総セ柑振セ) ベイトスプレーによるミカンバエ( <i>Bactrocera tsuneonis</i> )防除に関する基礎的知見	F401 五箇 公一(国立環境研) 寄生物・感染症の生態学～昆虫寄生ダニからカエルツボカビまで～	G401 ○世古 智一・安部 順一朗・三浦 一芸(農研機構近中四農研) 飛ばないナミテントウの利用を促進する代替餌システムの開発
9:15	A402 ○松本 信弘・今野 浩太郎(農業生物資源研究所) シュウ酸カルシウム針状結晶と相乗的耐虫効果を示す植物因子について	B402 園田 昌司(宇都宮大・農学部) 遺伝子重複を考慮したコナガのリアノジン受容体G4946E部位のジェノタイプピンゲ	C402 児玉 洋・○足立 康・諏訪 明之・坂田 和之(日本農業株式会社) プロプロフェジン(アプロード®)の春処理によるカイガラムシ類防除について	D402 ○香川 理威 <sup>1</sup> ・森 光太郎 <sup>2</sup> ・今井 修 <sup>1</sup> ・吉田 潔充 <sup>1</sup> ・中島 哲男 <sup>2</sup> ・平岡 正 <sup>3</sup> (石原産業(株) <sup>1</sup> ・石原バイオサイエンス(株) <sup>2</sup> ・大協技研工業(株) <sup>3</sup> ) 広食性天敵カブリダニ類の新規増殖維持技術とその効果	E402 ○本間 淳 <sup>1,2</sup> ・原口 大 <sup>3</sup> ・松山 隆史 <sup>4</sup> ・豊里 哲也 <sup>1</sup> (琉球産経 <sup>1</sup> ・琉大・農 <sup>2</sup> ・沖縄県農研セ <sup>3</sup> ・沖縄県防技セ <sup>4</sup> ) 繁殖干渉を用いた侵入ミバエに対する新しい防除法の開発	F402 ○大仲 桂太 <sup>1</sup> ・植原 健人 <sup>2</sup> ・西野 実 <sup>1</sup> (三重農研 <sup>1</sup> ・中央農研 <sup>2</sup> ) 三重県におけるネコブセンチュウの種構成と抵抗性打破系統の発生状況	G402 ○岸本 英成 <sup>1</sup> ・北野 峻伸 <sup>2</sup> (農研機構果樹研リンゴ <sup>1</sup> ・帝装化成 <sup>2</sup> ) ハダニクロヒメテントウとキアシクロヒメテントウの北海道から九州における発生状況
9:30	A403 ○小林 拓矢 <sup>1</sup> ・勝手 智子 <sup>1</sup> ・西田 律夫 <sup>1</sup> ・大島 一正 <sup>2</sup> ・小野 肇 <sup>1</sup> (京大・農 <sup>1</sup> ・京都府大・院生命環境 <sup>2</sup> ) 寄主転換の障壁に迫る:クルミホソガのクルミレースに作用するネジキの有毒成分	B403 ○相澤 美里 <sup>1</sup> ・園田 昌司 <sup>2</sup> ・熊野 明美 <sup>1</sup> ・渡邊 丈夫 <sup>1</sup> (香川農試 <sup>1</sup> ・宇都宮大 <sup>2</sup> ) ネギアザミウマにおける合成ピレスロイド剤抵抗性と生殖型の解析	C403 ○衛藤 友紀 <sup>1</sup> ・成富 毅誌 <sup>2</sup> (佐賀農試セ <sup>1</sup> ・佐賀園芸課 <sup>2</sup> ) 佐賀県で発生したクロテンコナカイガラムシの薬剤感受性	D403 ○吉澤 仁志 <sup>1</sup> ・長浜 ゆり <sup>1</sup> ・櫻井 まさみ <sup>1</sup> ・下田 武志 <sup>2</sup> ・日本 典秀 <sup>2</sup> ・森 光太郎 <sup>3</sup> ・中島 哲男 <sup>4</sup> ・平岡 正 <sup>5</sup> (群馬農技セ <sup>1</sup> ・農研機構・中央農研 <sup>2</sup> ・石原産業(株) <sup>3</sup> ・石原バイオサイエンス(株) <sup>4</sup> ・大協技研工業(株) <sup>5</sup> ) 促成栽培キュウリにおける天敵増殖資材「バンカーシート®」を利用したスワルスキーカブリダニの定着性向上の検討	E403 ○坂巻 祥孝 <sup>1</sup> ・瀬戸口 和樹 <sup>1</sup> ・津田 勝男 <sup>1</sup> ・鹿子木 聡 <sup>2</sup> (鹿大農 <sup>1</sup> ・鹿児島県農総セ茶業部 <sup>2</sup> ) 殺虫剤少量散布チャ園のクモ類科構成とそれらクモ類の捕食特性	F403 ○Kurniawan Andreas・Satoru(山形大・農) Effect of Japanese mud snail on performance of rice plant and its possible mechanism	G403 岡留 和伸(京都農技センター) 伏見トウガラシ・万願寺トウガラシにおけるヒメカメノコテントウによるアブラムシ類防除

3月29日(火)午前 一般講演

H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	U会場	
H401 A. K. Bhowmick <sup>1</sup> ・S. Das <sup>1</sup> ・R. S. Marabi <sup>1</sup> ・○和田 節 <sup>2</sup> (JNKVV <sup>1</sup> ・合志市 <sup>2</sup> ) A case study of yellow mosaic disease outbreak in soybean in Madhya Pradesh, Central India in 2015	I401 長島 聖大 (伊丹市昆虫館) 昆虫の標本作製や解剖のためのピンセットにおける先端形状とテンション値の調整技術について	J401 ○木内 隆史・菅野 雄大・嶋田 透・勝間 進 (東大農) CRISPR/Cas9システムによるカイコのオス化遺伝子 <i>Masc</i> の機能解析	K401 ○Chandrima Emtia・Ohno Kazuro (Univ. Miyazaki) Does the hoverfly forage effectively for flower resources?			9:00
H402 P. G. Ansari <sup>1</sup> ・R. K. Singh <sup>1</sup> ・Takashi Wada <sup>2</sup> ・○Hiroaki Noda <sup>3</sup> (RVSKVV, India <sup>1</sup> ・JICA <sup>2</sup> ・JICA, NIAS <sup>3</sup> ) Characterization of whiteflies on pulse crops in central India	I402 藤澤 侑典 (東京農大・農・昆虫) 東洋区産ヒメクモゾウムシ族 (ゾウムシ科) の多様性と3未記載属	J402 ○古谷 昌之・渡辺 千尋・金丸 研吾・山形 祐土・竹田 真木生・坂本 克彦・宇野 知秀 (神戸大学農学研究科) 免疫組織染色法を用いたカイコ低分子量GTP結合蛋白質 (Rab) の機能解析	K402 ○Chia-Ming LIU <sup>1</sup> ・Shigeru MATSUYAMA <sup>1</sup> ・Masatake SASAKI <sup>2</sup> ・Akihiro ARAKAWA <sup>2</sup> ・Yooichi KAINOH <sup>1</sup> (University of Tsukuba <sup>1</sup> ・Fukushima Prefecture <sup>2</sup> ) Rearing method and the behavioral responses to pest-infested plants in <i>Lytopylus rufipes</i>	L402 ○Iwata Masaki・Otaki Joji (Univ. Ryukyus) Spatial patterns of scale size in relation to color pattern elements in butterfly wings		9:15
H403 加進 丈二 (宮城古川農試) 白色粘着トラップを用いたイチモンジセセリのモニタリング	I403 野村 周平 (国立科博) コウチュウ目4亜目における前翅固定装置の形態比較	J403 ○秋月 岳・渡邊 和代 (農業生物資源研究所) カイコのハウスキーピング遺伝子のプロモーター領域を利用した昆虫培養細胞系における定常的遺伝子発現系の検討	K403 ○Gebreziher Haftay・Nakamuta Kiyoshi (千葉大・院・園芸) Attraction of a generalist predator to mixtures of HIPVs from multiple plant species in field cages	L403 ○Nakahama Naoyuki <sup>1</sup> ・Uchida Kei <sup>2</sup> ・Ushimaru Atushi <sup>3</sup> ・Isagi Yuji <sup>1</sup> (Kyoto Univ. <sup>1</sup> ・Univ. Tokyo <sup>2</sup> ・Kobe Univ. <sup>3</sup> ) The recent and past demography of endangered grassland butterfly <i>Melitaea ambigua</i> in Japan		9:30

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
9:45	A404 ○石栗 陽一 <sup>1</sup> ・吉永 直子 <sup>2</sup> ・森田 沙代 <sup>2</sup> ・森直樹 <sup>2</sup> (青森産技りんご研 <sup>1</sup> ・京大院農 <sup>2</sup> ) 異なる品種のリンゴ果実におけるモモシンクイガの幼虫発育	B404 ○上田 紘司・芦澤 淳・藤本 泰文(伊豆沼財団) 宮城県北部の伊豆沼・内沼におけるオオセスジイトトンボの分布および産卵環境	C404 ○青木 隆夫・内黒羽子徹・青島 正昂・周 及・藤岡 伸祐・坂田 和之(日本農業株式会社) プロフェジン・インプロチオラン混合剤のプロフェジン抵抗性トビイロウンカに対する相乗作用	D404 ○安達 鉄矢 <sup>1</sup> ・下元 満喜 <sup>1</sup> ・渋谷 淳平 <sup>1</sup> ・野町 敦志 <sup>2</sup> ・福原 宏 <sup>3</sup> ・下田 武志 <sup>4</sup> ・日本 典秀 <sup>4</sup> ・森 光太郎 <sup>5</sup> (高知農技セ <sup>1</sup> ・高知防除所 <sup>2</sup> ・高知安芸農振セ <sup>3</sup> ・農研機構・中央農研 <sup>4</sup> ・石原産業(株) <sup>5</sup> ) 施設栽培ダリアにおけるスワルスキーカブリダニの放飼方法の検討	E404 ○飯田 博之・北村 登史雄・河野 勝行・武田 光能(野菜茶業研究所) ネギ圃場における植生管理が地表徘徊性捕食者の個体数に及ぼす影響	F404 ○川津 一隆 <sup>1</sup> ・岸 茂樹 <sup>2</sup> (龍谷大/JSPS <sup>1</sup> ・国立環境研究所 <sup>2</sup> ) マメゾウムシ実験系の非線形時系列解析:競争排除をもたらす要因を推理する	G404 浦野 忠久(森林総研) サビマダラオオホソカタムシの寄主プラスに対する選択試験
10:00	A405 ○山下 雄大・佐久間 正幸(京大院・農・昆虫生理) 転回応答調節によるケナガコナダニの走湿性	B405 ○石谷 正宇 <sup>1</sup> ・水田 國康 <sup>2</sup> (広島大学教育学部研究科 <sup>1</sup> ・広島市 <sup>2</sup> ) 建設後30年経過した広島市の大規模団地でのチョウ類の種多様性と生息環境Ⅱ -2010から2012年の種構成序列化分析-	C405 ○嘉数 若子 <sup>1</sup> ・永山 敦士 <sup>2</sup> ・島谷 真幸 <sup>1</sup> ・玉城 由美子 <sup>3</sup> ・知念 さゆり <sup>3</sup> ・仲田 朝毅 <sup>4</sup> ・橋本 岳 <sup>5</sup> ・砂川 喜信 <sup>1</sup> ・眞境名 元次 <sup>1</sup> ・新垣 則雄 <sup>1</sup> (沖縄農研セ <sup>1</sup> ・沖縄病害虫防セ <sup>2</sup> ・興南施設管理(株) <sup>3</sup> ・沖縄土改連 <sup>4</sup> ・沖縄県営農支援課 <sup>5</sup> ) イネヨトウの交信かく乱剤の処理量低減による防除効果	D405 ○下元 満喜 <sup>1</sup> ・安達 鉄矢 <sup>1</sup> ・森 光太郎 <sup>2</sup> ・大朝 真喜子 <sup>2</sup> (高知農技セ <sup>1</sup> ・石原産業(株) <sup>2</sup> ) 施設メロンにおけるバンカーシート <sup>®</sup> によるスワルスキーカブリダニ放飼と単子葉類花粉製品(NutrimiteTM)処理によるミナミキイロアザミウマ防除	E405 ○金崎 秀司・崎山 進二・宮下 裕司(愛媛農水研果研セ)クリIPM防除体系試験	F405 ○嶋田 正和 <sup>1</sup> ・長瀬 泰子 <sup>1</sup> ・小林 祐一郎 <sup>1</sup> ・笹川 幸治 <sup>2</sup> (東大・総合文化・広域 <sup>1</sup> ・千葉大・教育 <sup>2</sup> ) 寄生蜂ゾウムシコガネコバチと近縁種による競争下での推移行列の固有値感度分析	G405 ○喜友名 朝次・玉城 雅範(沖森研セ) マツノマダラカミキリ( <i>Monochamus alternatus</i> )の天敵クロサワオオホソカタムシ( <i>Dastarcus kurosawai</i> )の卵接種法
10:15	A406 深津 武馬(産業技術総合研究所) 多様な貯蔵食品害虫の多様な共生微生物	B406 窪田 聖一(愛媛県松前町) 愛媛県におけるクロヒカゲモドキの発生生態	C406 ○清野 宏行・矢野 真樹郎・山本 敦司・波多野 連平(日本曹達(株)) りんご害虫キリガ類に対するテブフェノジド水和剤(ロムダン <sup>®</sup> フロアブル)の防除効果	D406 ○五十嵐 清晃 <sup>1</sup> ・西森 俊英 <sup>1</sup> ・山我 岳史 <sup>1</sup> ・高嶋 庸平 <sup>2</sup> ・香川 理威 <sup>3</sup> ・中島 哲男 <sup>4</sup> (JA全農営技セ <sup>1</sup> ・JA全農肥薬部 <sup>2</sup> ・石原産業 <sup>3</sup> ・石原バイオサイエンス <sup>4</sup> ) 育苗期のバンカーシートおよび花粉資材の併用によるスワルスキーカブリダニ放飼量の検討	E406 ○岩本 哲弥・本田 善之・安永 真(山口農林総セ) クリシギゾウムシ成虫の地上出現と後食行動、産卵について	F406 ○伊藤 広記・大澤 直哉(京大・農・森林生態) 天草下島の広葉樹二次林におけるオオゴキブリ科昆虫の朽木選好性	G406 ○土田 聡 <sup>1</sup> ・檜垣 守男 <sup>1</sup> ・金子 政夫 <sup>2</sup> (農研機構果樹研 <sup>1</sup> ・長野果樹試 <sup>2</sup> ) リンゴ園の地上徘徊性天敵からのモモシンクイガDNAの検出

H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	U会場	
H404 ○横堀 亜弥・加進 丈二・相花 絵里 (宮城古川農試) 宮城県における予察灯とフェロモントラップによるフタオビコヤガの誘殺消長と発生世代数の推定	I404 佐藤 俊一 <sup>3</sup> ・猪田 利夫 <sup>2</sup> ・新津 修平 <sup>1</sup> ・久保田 宗一郎 <sup>2</sup> ・後藤 友二 <sup>2</sup> ・○小林 幸正 <sup>3</sup> (首都大・生命 <sup>1</sup> ・東邦大・生物 <sup>2</sup> ・無し <sup>3</sup> ) ガムシ胚における非対称的大顎の形成過程 (Coleoptera: Hydrophilidae)	J404 ○Richard CORNETTE <sup>1</sup> ・Oleg GUSEV <sup>2</sup> ・菊田 真吾 <sup>3</sup> ・岡田 淳 <sup>1</sup> ・奥田 隆 <sup>1</sup> ・黄川田 隆洋 <sup>1</sup> (農業生物資源研究所 <sup>1</sup> ・カザン大学 <sup>2</sup> ・東京農工大学 <sup>3</sup> ) カラカラ乾燥しても死なないネムリユスリカにおけるプロモーター機能解析	K404 ○Shibuya Kazuki <sup>1,2</sup> ・Hori Masatoshi <sup>1</sup> (Tohoku Univ. <sup>1</sup> ・Research Fellow of JSPS <sup>2</sup> ) Lethal effect of blue light on <i>Drosophila melanogaster</i> and its mechanism	L404 ○Dewi ViraKusuma・Yasuda Hironori (山形大・農) The effect of mud snails on feeding guilds of terrestrial arthropods mediated by composition of aquatic organisms and rice plant biomass in the paddy fields		9:45
H405 奥谷 恭代 (鳥取農試) 鳥取県のダイズほ場におけるマメシクイガ成虫の発生期間と発生盛期	I405 ○武田 藍・大谷 徹・中井 善太 (千葉農林総研) 箱施用剤によるイネクロカメムシの防除効果の比較	J405 佐藤 大樹 (森林総研) オビシタカワゲラ属の後腸寄生菌 <i>Capniomyces</i> sp. について	K405 ○Yuki Mitaka <sup>1</sup> ・Kazuya Kobayashi <sup>1</sup> ・Alexander Mikheyev <sup>2</sup> ・Mandy Tin <sup>2</sup> ・Yutaka Watanabe <sup>2</sup> ・Kenji Matsuura <sup>1</sup> (Kyoto Univ. <sup>1</sup> ・OIST <sup>2</sup> ) Caste- and sex-specific expression of chemoreceptor genes in a termite	L405 ○Ariyoshi Keiko・Kawamura Tomohiro・Ohshima Issei (Kyoto Pref. Univ.) Interspecific competition between solitary braconid endoparasitoids of <i>Acrocercops transecta</i>		10:00
H406 ○小森 秀雄・山内 富士男 (福島農総セ) マメシクイガ多発ほ場におけるフェロモントラップ誘殺消長とクロラントラニプロール水和剤による防除効果	I406 ○岩田 大介・石本 万寿広 (新潟農総研作物研) 水田畦畔における雑草管理方法と植生の関係	J406 ○柳川 綾 <sup>1</sup> ・今井 友也 <sup>1</sup> ・秋野 順治 <sup>2</sup> ・畑 俊光 <sup>1</sup> ・吉村 剛 <sup>1</sup> ・藤 義博 <sup>3</sup> (京大生存圏 <sup>1</sup> ・京大工繊 <sup>2</sup> ・九大理 <sup>3</sup> ) 病原微生物由来揮発性シグナルがイエシロアリ歩行進行方向の選択に与える影響	K406 ○Takashima Rui・Matsuura Kenji (Insect Ecology, Kyoto Univ.) Linking personal immunity and colony foundation success of monogamous pairs in termites	L406 ○Kobayashi Masayuki・Ohshima Issei (Kyoto Pref. Univ.) Genetics of performance and preference in <i>Acrocercops transecta</i>		10:15



	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
10:30	A407 ○西出 雄大 <sup>1</sup> ・古賀 隆一 <sup>2</sup> ・深津 武馬 <sup>2</sup> (生物研・昆虫微生物 <sup>1</sup> ・産総研・生物プロセス <sup>2</sup> ) チャバネアオカメムシ地域集団における共生細菌との共進化	B407 田中 良尚 (伊丹市昆虫館) ウケジママルバネクワガタの生息状況について	C407 ○四宮 啓登・所 尚美・村上 翔太・中村 知史・小川 正臣・福地 淳(住友化学株式会社) 水稻鉄コーティング直播栽培におけるclothianidin含有粒剤の播種時同時処理によるイネミズゾウムシ・イネドロオイムシの防除	D407 ○河村 俊和 <sup>1</sup> ・本田 善之 <sup>1</sup> ・岩本 哲弥 <sup>1</sup> ・森 光太郎 <sup>2</sup> ・大朝 真喜子 <sup>2</sup> ・香川 理威 <sup>2</sup> (山口農林総技セ <sup>1</sup> ・石原産業中央研 <sup>2</sup> ) バンカーシート®を利用したスワルスキーカブリダニによるキュウリのコナジラミ類防除	E407 ○杉浦 直幸 <sup>1</sup> ・山田 一字 <sup>1</sup> ・境田 誠 <sup>2</sup> (熊本果樹研 <sup>1</sup> ・上益城農業普及振興課 <sup>2</sup> ) クリシギゾウムシのクリ果実への加害時期と立木防除による被害抑制効果	F407 ○李 楊・秋元 信一(北大農昆虫体系) ユキムシにおける性比の変動とクローンレベルの性投資	G407 武藤 麗子・石川 幸男・松尾 隆嗣(東大・農) テナガシヨウジョウバエの求愛行動の発達
10:45	A408 ○松浦 優 <sup>1,2</sup> ・小川 浩太 <sup>3</sup> ・松波 雅俊 <sup>1</sup> ・菊池 義智 <sup>2</sup> ・重信 秀治 <sup>3</sup> ・深津 武馬 <sup>2</sup> ・三浦 徹 <sup>1</sup> (北大・地環研 <sup>1</sup> ・産総研・生物プロセス <sup>2</sup> ・基生研・生物機能解析 <sup>3</sup> ) ヒメナガカメムシ菌細胞の形成に関わる遺伝子群の探索	B408 大林 隆司 (都小笠原亜熱帯農セ) 小笠原(父島・母島)島外(沖縄本島)からの購入苗から検出された生物類  <b>講演取り消し</b>	C408 ○福田 健・重水 剛(鹿児島農総セ大隅) ダイコンのキスジノミハムシに対するシアントラニリブロール粒剤の播種時播溝処理を基幹とした体系処理での防除効果	D408 羽田 厚 (岩手農研セ) リング園地でのカブリダニ類の有効な利用方法を考える	E408 ○吉田 睦浩 <sup>1</sup> ・岡田 吉弘 <sup>2</sup> ・市瀬 克也 <sup>2</sup> (九州沖縄農研 <sup>1</sup> ・九州沖縄農研系満駐在 <sup>2</sup> ) 昆虫病原性線虫によるゾウムシ類のサツマイモ被害への低減効果	F408 ○堀尾 知生・神戸 崇・秋元 信一(北大・農・昆虫体系) 近親交配は無性生殖よりまし?—無性状態に9年間置かれたアブラムシクローン(親)と自殖由来クローン(子孫)との比較—	G408 中野 亮 <sup>1,2</sup> (農研機構・果樹研 <sup>1</sup> ・Univ. of Toronto Scarborough <sup>2</sup> ) 捕食圧が牽引する交尾シグナルのデザイン
11:00	A409 ○棚橋 薫彦 <sup>1</sup> ・渡邊 花奈 <sup>2</sup> ・川上 華子 <sup>3</sup> ・久保田 耕平 <sup>2</sup> ・深津 武馬 <sup>1</sup> (産総研 <sup>1</sup> ・東大院農 <sup>2</sup> ・東大農 <sup>3</sup> ) クワガタムシの地理的分布と共生酵母の温度適応	B409 ○塚本 敬之・近藤 博次・重久 眞至・西村 卓真・山本 雅則 (滋賀農技セ) 環境こだわり栽培が水田の生物多様性に与える効果	C409 ○兼次 克也 <sup>1</sup> ・播本 佳明 <sup>1</sup> ・大上 恵 <sup>1</sup> ・溝山 泰徳 <sup>2</sup> ・尾上 美和 <sup>3</sup> ・宮下 裕司 <sup>4</sup> (ダウ・ケミカル日本 <sup>1</sup> ・日産化学 <sup>2</sup> ・北興化学 <sup>3</sup> ・愛媛果樹研 <sup>4</sup> ) 新規殺虫剤イソクラストに関する研究(3)果樹カイガラムシに対する活性	D409 澤村 信生 <sup>1</sup> ・森 光太郎 <sup>2</sup> (島根農技 <sup>1</sup> ・石原産業(株) <sup>2</sup> ) 施設栽培ブドウにおけるミヤコカブリダニの維持技術の開発	E409 ○岡田 吉弘 <sup>1</sup> ・吉田 睦浩 <sup>2</sup> ・境 哲文 <sup>3</sup> ・市瀬 克也 <sup>1</sup> (九州農研系満 <sup>1</sup> ・九州農研系 <sup>2</sup> ・九州農研系 <sup>3</sup> ) イモゾウムシ誘引・忌避効果を有するサツマイモ系統と昆虫病原性線虫利用によるイモゾウムシ被害低減効果	F409 ○飯塚 弘明・大澤 直哉 (京大院農) コナラ樹幹の材質に応じた養菌性キクイムシ類のニッチ分化	G409 安部 淳 (神奈川大・理・生物) ゾウムシコガネコバチにおける雄の射精量と雌の交尾回数

H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	U会場	
H407 ○神川 諭 <sup>1</sup> ・ 日本 典秀 <sup>2</sup> (奈良農 研セ <sup>1</sup> ・農研機構中 央農研 <sup>2</sup> ) トマトに食入したタ バコガ類幼虫のDNA マーカーを用いた同 定と発生予察方法の 検討	I407 ○八尾 充睦・ 植松 繁(石川農総 研) トゲシラホシカメム シの発生源対策とし ての除草時期の再検 討	J407 ○吉田 信代 <sup>1</sup> ・ 森本 信生 <sup>1</sup> ・柴 卓也 <sup>2</sup> ・松倉 啓一郎 <sup>3</sup> ・ 久保田 明人 <sup>4</sup> ・ 荒川 明 <sup>3</sup> ・清 多佳 子 <sup>1</sup> ・上山 泰史 <sup>1</sup> (畜産草地研 <sup>1</sup> ・中央 農研 <sup>2</sup> ・九州農研 <sup>3</sup> ・ 東北農研 <sup>4</sup> ) 共生糸状菌感染イタ リアンライグラスで 斑点米カメムシを抑制するには:植物体 内のロリン濃度分布 と種子の糸状菌感染 率	K407 ○Mizumoto Nobuaki・Yashiro Toshihisa・ Matsuura Kenji (Kyoto Univ.) Male pairs of termite cooperate for survival and future reproduction	L407 ○Ogawa Naoki・Yoshizawa Kazunori(北大・ 農・昆虫体系) Independent origins of powerful jumping ability in Hemiptera recovered by thoracic musclature		10:30
H408 ○安部 洋 <sup>1</sup> ・ 下田 武志 <sup>2</sup> ・澤田 有司 <sup>3</sup> ・瀬尾 茂美 <sup>4</sup> ・ 富高 保弘 <sup>2</sup> ・立 石 剣 <sup>4</sup> ・平井 優美 <sup>3</sup> ・ 釘宮 聡 <sup>5</sup> ・櫻 井 民人 <sup>2</sup> ・津田 新 哉 <sup>2</sup> ・小林 正智 <sup>1</sup> (理研BRC <sup>1</sup> ・中央農 研 <sup>2</sup> ・理研CSRS <sup>3</sup> ・生 物研 <sup>4</sup> ・農環研 <sup>5</sup> ) 害虫行動に関わる植 物防御因子の探索	I408 ○鈴木 理・佐 藤 智(山形大・農) 畦畔の雑草管理法が クモ類の発生に及ぼ す影響とそのメカニ ズム	J408 ○和田 早苗 <sup>1</sup> ・ 宮本 和久 <sup>1</sup> ・山 本 公子 <sup>1</sup> ・高須 陽 子 <sup>1</sup> ・飯塚 哲也 <sup>1</sup> ・ 内野 恵郎 <sup>1</sup> ・瀬筒 秀樹 <sup>1</sup> ・田中 博光 <sup>1</sup> ・ 国見 裕久 <sup>2</sup> (生 物研 <sup>1</sup> ・農工大 <sup>2</sup> ) カイコの昆虫病原糸 状菌感染抵抗性遺伝 子のゲノム編集によ る同定	K408 ○Nozaki Tomonari・Yashiro Toshihisa・ Matsuura Kenji (Kyoto Univ.) Preadaptive linkage of parthenogenesis and AQS in termite	L408 ○Furuki Takahiro <sup>1,2,3,4,5</sup> ・ Umamoto Noritomo <sup>1</sup> ・Ohoka Wataru <sup>2</sup> ・Nakajo Mitsuru <sup>3</sup> ・Katagiri Chihiro <sup>4</sup> ・Kostal Vladimir <sup>5</sup> ・Harada Tetsuo <sup>1</sup> (高知大・ 院・環境生理 <sup>1</sup> ・京 大・医・人間健康科 学 <sup>2</sup> ・高知大・院・ 理科教育 <sup>3</sup> ・東京電 気大 <sup>4</sup> ・Czech Academy of Sciences <sup>5</sup> ) Cool- and heat- tolerances and recovery times from cool and heal comas of sea skaters, <i>Halobates</i> spp.		10:45
H409 ○阿部 誠・富 岡 祐紀・遠藤 慎 也・野下 浩二・田 母神 繁(秋田県立 大・生物資源) 虫に嫌われるヒメス イバは他の植物にも 嫌われる	I409 ○上野 清 <sup>1</sup> ・ 齋藤 信弥 <sup>2</sup> (山形農 総研水田農試 <sup>1</sup> ・山 形防除所庄内 <sup>2</sup> ) 出穂期以降の殺虫剤 散布に合わせた畦畔 除草による斑点米カ メムシ類防除	J409 上樂 明也・○ 三橋 渡・宮本 和 久・渡部 賢司・桑 崎 誠剛・和田 早苗 (生物研) 昆虫ボックスウイル スゲノムへの宿主 ABCトランスポー ター配列の移動	K409 ○Masuoka Yudai <sup>1</sup> ・Yaguchi Hajime <sup>1</sup> ・Toga Kouhei <sup>2</sup> ・Shigenobu Shuji <sup>3</sup> ・Maekawa Kiyoto <sup>1</sup> (Univ. Toyama <sup>1</sup> ・Univ. Nagoya <sup>2</sup> ・NIBB <sup>3</sup> ) Comparative transcriptome analysis of JH response genes between termites and woodroachs	L409 ○Sayed Mohammad Jalil Mohammadi <sup>1</sup> ・Keiji Takasu <sup>2</sup> ・Tarō Adati <sup>1</sup> (Tokyo Univ. of Agriculture <sup>1</sup> ・ Kyushu University <sup>2</sup> ) Oviposition behavior and development in superparasitism of egg parasitoid, <i>Ooencyrtus nezarae</i>		11:00

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
11:15	A410 ○久保田 耕平 <sup>1</sup> ・渡邊 花奈 <sup>1</sup> ・川上 華子 <sup>2</sup> ・深津 武馬 <sup>3</sup> ・棚橋 薫彦 <sup>3</sup> (東大院農 <sup>1</sup> ・東大農 <sup>2</sup> ・産総研 <sup>3</sup> ) 日本産ルリクワガタ属共生酵母の高温耐性	B410 ○芳田 琢磨・吉村 正志・小笠原 昌子・Evan Economo (OIST) 沖縄本島を舞台とした長期環境モニタリングプロジェクト	C410 ○溝山 泰徳 <sup>1</sup> ・小林 彩 <sup>2</sup> ・兼次 克也 <sup>2</sup> ・松浦 明 <sup>3</sup> (日産化学工業 <sup>1</sup> ・ダウ・ケミカル日本 <sup>2</sup> ・宮崎県総合農業試験場 <sup>3</sup> ) 新規殺虫剤イソクラスト™に関する研究 (4) 野菜分野アブラムシ類に対するトランスフォームの効果	D410 ○貴島 圭介 <sup>1</sup> ・喜久村 智子 <sup>1</sup> ・桃下 光敏 <sup>2</sup> (沖縄農研セ <sup>1</sup> ・アリスタ(株) <sup>2</sup> ) 施設ニガウリのミナミキイロアザミウマに対するスワルスキーカブリダニの防除効果	E410 ○小堀 陽一 <sup>1</sup> ・Yupa Hanboonsong <sup>2</sup> (国際農研 <sup>1</sup> ・Khon Kaen Univ. <sup>2</sup> ) 健全種茎増殖圃場の管理を中心としたサトウキビ白葉病の総合的管理技術開発	F410 星崎 杉彦(東大院農) カブトムシ終齢幼虫における成長の性差: 成長速度に差があるのはいつ?	G410 ○久末 遊 <sup>1</sup> ・小西 和彦 <sup>2</sup> ・高篠 賢二 <sup>3</sup> (愛媛大・農 <sup>1</sup> ・愛媛大・ミュージアム <sup>2</sup> ・北海道農業研究センター <sup>3</sup> ) ヒメバチ科アリヤドリバチ亜科 <i>Ghilaromma</i> 属の産卵行動
11:30	A411 金城 幸宏 <sup>1,2</sup> ・本郷 裕 <sup>2</sup> ・大熊 盛也 <sup>1</sup> ・徳田 岳 <sup>3</sup> (理研・JCM <sup>1</sup> ・東工大・生命理工 <sup>2</sup> ・琉球大・熱生研 <sup>3</sup> ) キゴキブリ細胞内共生細菌 <i>Blattabacterium</i> における遺伝子欠落機序と腸内代謝系の変化	B411 奥寺 繁(北教大・旭川) 岩手県雫石川河川敷の頸吻亜目相	C411 ○市橋 俊 <sup>1</sup> ・岡村 大悟 <sup>1</sup> ・尾上 美和 <sup>1</sup> ・播本 佳明 <sup>2</sup> ・白石 郁雄 <sup>2</sup> (北興化学工業株式会社 <sup>1</sup> ・ダウ・ケミカル日本株式会社 <sup>2</sup> ) 新規殺虫剤イソクラスト™に関する研究 (5) 水稻カメムシ目害虫に対する効果	D411 ○柿元 一樹 <sup>1</sup> ・松比良 邦彦 <sup>1</sup> ・井上 栄明 <sup>1</sup> ・山中 聡 <sup>2</sup> (鹿児島農総 <sup>1</sup> ・アリスタ(株) <sup>2</sup> ) リモニカスカブリダニとスワルスキーカブリダニの実用性はどうか異なるか?	E411 嶽崎 研 <sup>1,2,3,4</sup> (鹿児島農総 <sup>1</sup> ・国際農研センター <sup>2</sup> ・農環研 <sup>3</sup> ・信越化学 <sup>4</sup> ) サトウキビのイネヨトウに対する交信かく乱による防除効果	F411 ○森本 然 <sup>1</sup> ・立田 晴記 <sup>1</sup> ・辻 和希 <sup>1</sup> ・熊野了州 <sup>2</sup> ・鶴井 香織 <sup>3</sup> (琉球大・農・昆虫 <sup>1</sup> ・帯畜大・環境生態 <sup>2</sup> ・琉球大・戦略的研究セ <sup>3</sup> ) イモゾウムシのメス不妊虫は不妊虫放飼法に貢献するか?	G411 ○高須 賀圭 <sup>3</sup> ・松本 吏樹郎 <sup>2</sup> ・前藤 薫 <sup>1</sup> (神戸大院・農 <sup>1</sup> ・大阪自然史博 <sup>2</sup> ) ニホンヒメグモ科(クモ目ヒメグモ科)のノックダウン式不規則網に特化したキマダラクモヒメバチ <i>Zatypota maculata</i> の産卵行動(ハチ目ヒメバチ科)
11:45	A412 八尾 泉(北大院・農・昆虫体系) アリ共生型・非共生型アブラムシの微生物 <i>Buchnera</i> におけるアミノ酸代謝遺伝子の選択強度と進化速度差			D412 ○奥野 昌平・里見 純(アリスタライフサイエンス <sup>1</sup> ) リモニカスカブリダニのヒラズハナアザミウマに対する捕食能力	E412 ○森本 信生・吉田 信代(農研機構 畜草研) 栃木県北部における飼料用トウモロコシの播種時期が、アワノメイガの発生、被害に及ぼす影響	F412 ○山中 武彦 <sup>1</sup> ・大澤 剛士 <sup>1</sup> ・中谷 至伸 <sup>1</sup> ・二橋 亮 <sup>2</sup> ・立田 晴記 <sup>3</sup> (農環研 <sup>1</sup> ・産総研 <sup>2</sup> ・琉球大 <sup>3</sup> ) 一般参加型生物調査の効率化と成功へ導く提案ートンボ携帯調査ゲーム	

H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	U会場	
<p>H410 ○大石 毅<sup>1</sup>・照屋 清仁<sup>1</sup>・本間 淳<sup>2,3</sup> (沖縄防セ<sup>1</sup>・琉大農<sup>2</sup>・琉球産経<sup>3</sup>) 人工飼料の主成分イモ粉末の製造中止に伴う新規イモ粉末の探索と飼育試験</p>	<p>I410 ○石本 万寿広<sup>1</sup>・岩田 大介<sup>1</sup>・永瀬 淳<sup>2</sup> (新潟農総研作物研<sup>1</sup>・新潟防除所<sup>2</sup>) イネの白ふへの産卵に起因するアカスジカスミカメ幼虫発生の可能性</p>	<p>J410 高務 淳 (森林総研) トビモンオオエダシヤクから分離されたサイボウウイルス</p>	<p>K410 ○Kento Iwata・Yasuhisa Kunimi・Maki N. Inoue・Madoka Nakai (農工大院・農) Midgut-based resistance to a baculovirus in <i>Adoxophyes honmai</i></p>	<p>L410 ○Higuchi Tomohiro・Kohatsu Soh・Yamamoto Daisuke (Life Sci. Tohoku Univ.) An analysis of a role of visual cues in the courtship induction in <i>Drosophila subobscura</i></p>		11:15
<p>H411 萬屋 宏 (農研機構 野菜茶研) チャにおけるチャノミドリヒメヨコバイ抵抗性の行動学的要因</p>	<p>I411 ○高橋 良知・菊池 英樹 (秋田農試) イヌホタルイ密度に応じたアカスジカスミカメの防除適期の検討</p>	<p>J411 ○伊藤 克彦<sup>1</sup>・天竺桂 弘子<sup>1</sup>・横山 岳<sup>1</sup>・門野 敬子<sup>2</sup> (農工大院農<sup>1</sup>・生物研<sup>2</sup>) 中腸の組織培養と培養組織を用いたカイコ濃核病ウイルス2型の感染実験</p>	<p>K411 ○Chien-Kuei Hsieh・De-Fen Mou・Chi-Wei Tsai (NTU Entomology) The infection and dissemination of a tomato begomovirus in <i>Bemisia tabaci</i></p>	<p>L411 ○Miwa Yusuke<sup>1</sup>・Koganezawa Masayuki<sup>1</sup>・Emoto Kazuo<sup>2</sup>・Yamamoto Daisuke<sup>1</sup> (Life Sci., Tohoku Univ.<sup>1</sup>・Sci., The Univ. of Tokyo<sup>2</sup>) Searching for <i>ppk</i>-expressing neurons that control female receptivity in <i>Drosophila</i></p>		11:30
<p>H412 長澤 淳彦 (東北大院・農) ウコンノメイガの寄主選択に関する考察</p>		<p>J412 ○宮本 和久・三橋 渡・和田 早苗 (生物研) ソルマメを摂食する数種チョウ目昆虫の殺虫性毒素 (CryIAc) 感受性について</p>	<p>K412 ○Ishii Minehiro<sup>1,2,3</sup>・Koike Masanori<sup>2</sup>・Aiuchi Daigo<sup>2</sup> (Iwate University<sup>1</sup>・Obihiro University of Agriculture<sup>2</sup>・JSPS・DC1<sup>3</sup>) Entomopathogenic fungus inhibits blood feeding and egg production of mosquito</p>	<p>L412 ○Yosano Shun・Akatsu Minami・Kutsuwada Yasuhiko・Masuta Shuhei・Kakazu Rei・Masuoka Naoshi・Matsuda Kazuhiro・Hori Masatoshi (Tohoku Univ.) The discrimination of host plants by tarsi in Chrysomelidae</p>		11:45

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
13:00	A413 ○杉本 貴史 <sup>1</sup> ・藤次 一嘉 <sup>2</sup> ・長峯 啓佑 <sup>2</sup> ・土田 努 <sup>1</sup> ・石川 幸男 <sup>2</sup> (富山大・院・理工 <sup>1</sup> ・東大・院・農 <sup>2</sup> ) アズキノメイガにおけるボルバキアによる不自然な性比異常現象の解析			D413 ○柳田 裕紹 <sup>1</sup> ・桐明 紗織 <sup>1</sup> ・森 光太郎 <sup>2</sup> (福岡県農林試 <sup>1</sup> ・石原産業(株)中央研 <sup>2</sup> ) 促成イチゴにおけるアカメガシワクダアザミウマを用いたヒラズハナアザミウマ防除の可能性		F413 ○Tanaka Sota <sup>1</sup> ・Takahashi Sentaro <sup>1,2</sup> ・Adati Taro <sup>3</sup> ・Takahashi Tomoyuki <sup>2</sup> (京都大学大学院農学研究科 <sup>1</sup> ・京都大学原子炉実験所 <sup>2</sup> ・東京農業大学 <sup>3</sup> ) Behavior of radioactive cesium in the food chain including arthropods and earthworms	G413 赤嶺 真由美 (日大・生物資源) ゴホンダイコクコガネの雄の角のサイズと、野外における出現時期および巢内滞在状況との関係
13:15	A414 高野 俊一郎 (九大院・農) キムネクロナガハムシ系統間の細胞質不和合を引き起こすボルバキア様細菌			D414 ○喜久村 智子・貴島 圭介 (沖縄農研センター) クログハナアザミウマの発育と繁殖に及ぼす温度の影響		F414 白石 昭彦 (中央農研) 茨城県南部におけるアキアカネ発生に関わる諸要因	G414 ○熊野 了州 <sup>1</sup> ・照屋 清人 <sup>2</sup> ・鶴井 香織 <sup>3</sup> ・豊里 哲也 <sup>4</sup> (帯畜大・昆虫生態 <sup>1</sup> ・沖縄病害虫防技術セ <sup>2</sup> ・琉大・戦略的研究セ <sup>3</sup> ・琉球産経 <sup>4</sup> ) 微量元素を利用したイモゾウムシの交尾頻度の推定
13:30	A415 ○大手 学 <sup>1</sup> ・上山 盛夫 <sup>2</sup> ・山元 大輔 <sup>1</sup> (東北大・院・生命 <sup>1</sup> ・精神・神経医療研究センター <sup>2</sup> ) Wolbachiaタンパク質Tom0はnanos mRNAを標的としSex-lethal変異体表現型を回復させる			D415 ○國本 佳範 <sup>1</sup> ・丸山 晶紀 <sup>2</sup> ・伊藤 健司 <sup>3</sup> ・矢野 栄二 <sup>2</sup> (奈良農研開セ <sup>1</sup> ・近畿大学 <sup>2</sup> ・アグリ総研 <sup>3</sup> ) 施設栽培スイカでの飛ばないナミテントウの防除効果について		F415 ○笠井 敦 <sup>1</sup> ・林 岳彦 <sup>1</sup> ・大西 一志 <sup>1</sup> ・鈴木 一隆 <sup>1</sup> ・杉田 典正 <sup>1</sup> ・早坂 大亮 <sup>2</sup> ・五箇 公一 <sup>1</sup> (国立環境研 <sup>1</sup> ・近畿大農学部 <sup>2</sup> ) フィプロニルの箱苗施用がトンボ相に及ぼす影響	G415 ○立田 晴記 <sup>1</sup> ・熊野 了州 <sup>2</sup> ・高梨 琢磨 <sup>3</sup> (琉球大・農 <sup>1</sup> ・帯畜大畜産大・環境 <sup>2</sup> ・森林総研 <sup>3</sup> ) イモゾウムシの発音器官特定と発音時間に見られる地理的変異
13:45						F416 ○降幡 駿介 <sup>1</sup> ・笠井 敦 <sup>1</sup> ・日鷹 一雅 <sup>2</sup> ・杉田 典正 <sup>1</sup> ・岸 茂樹 <sup>1</sup> ・五箇 公一 <sup>1</sup> (国立環境研 <sup>1</sup> ・愛媛大・院農 <sup>2</sup> ) トンボ類に対するネオニコチノイド系殺虫剤の影響評価：現状と課題	

H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	U会場	
		<p>J413 ○Marko Stoic<sup>1</sup>・Mikio Yoshiyama<sup>2</sup>・Kiyoshi Kimura<sup>2</sup> (Univ. Tsukuba, Life &amp; Env. Sci.<sup>1</sup>・NILGS, Honeybee Res. Unit<sup>2</sup>) Potential antibacterial activity of chestnut honey against <i>Paenibacillus larave</i></p>	<p>K413 ○Shiori Goto<sup>1</sup>・Takeshita Kazutaka<sup>1,2</sup>・Ohbayashi Tsubasa<sup>1</sup>・Matsuura Yu<sup>1</sup>・Kikuchi Yoshitomo<sup>1,2</sup> (Hokkaido University<sup>1</sup>・AIST・BPRI<sup>2</sup>) A different face in the gut: morphological alteration of the <i>Burkholderia</i> symbiont during infection</p>	<p>L413 ○Piyasaengthong Narisara・Sato Yukie・Kinoshita Natsuko・Kainoh Yooichi (Univ. Tsukuba, Life&amp;Env. Sci.) Host Moth Oviposition and Induction of Tea Leaves to Arrest the Parasitoid <i>Ascogaster reticulata</i></p>		13:00
		<p>J414 ○大野 豪<sup>1</sup>・久松 定智<sup>2</sup>・北野 峻伸<sup>3</sup> (沖縄農研セ・石垣支所<sup>1</sup>・愛媛県・生物多様性セ<sup>2</sup>・(株)帝装化成<sup>3</sup>) 石垣島におけるアデモヤの訪花性甲虫の種構成および主要種の発生活長</p>	<p>K414 ○Sakai Hiroki<sup>1</sup>・Sumitani Megumi<sup>2</sup>・Chikami Yasuhiko<sup>3</sup>・Yahata Kensuke<sup>3</sup>・Uchino Keiro<sup>2</sup>・Kiuchi Takashi<sup>1</sup>・Katsuma Susumu<sup>1</sup>・Aoki Fugaku<sup>1</sup>・Sezutsu Hideki<sup>2</sup>・Suzuki G Masataka<sup>1</sup> (Univ. of Tokyo<sup>1</sup>・NIAS<sup>2</sup>・Univ. Tsukuba<sup>3</sup>) Transgenic analysis of the <i>Masc</i> gene in the silkworm, <i>Bombyx mori</i></p>	<p>L414 ○Imura Eisuke<sup>1</sup>・Shimada-Niwa Yuko<sup>2</sup>・Niwa Ryusuke<sup>1,3</sup> (Life and Env, Univ. of Tsukuba<sup>1</sup>・TARA center, Univ. of Tsukuba<sup>2</sup>・PRESTO, JST<sup>3</sup>) Identification of novel neurons regulating the steroid hormone biosynthesis in <i>Drosophila</i></p>		13:15
		<p>J415 中村 達 (国際農研) 近年注目の昆虫資源 アメリカミズアブ</p>				13:30
			<p>英語優秀口頭発表賞授与式</p>			13:45